

日本語の身体慣用句一覧

沖 裕子 監修
信大日本語教育研究会有志作成

教授 沖 裕子 (長野県 松本市)

- 4年生 門脇恵利子 (鳥取県 西伯郡) 酒巻愛 (福島県 白河市)
進藤みのり (山梨県 西八代郡) 鈴江卓馬 (奈良県 生駒市)
福本奈央子 (長崎県 大村市) [以上1班]
- 3年生 佐藤智佳子 (秋田県 湯沢市) 田口愛葉 (岐阜県 益田郡)
中島葉子 (長野県 北安曇郡) [以上2班]
上条由実 (長野県 小県郡) 富所諒子 (新潟県 南魚沼郡)
[以上3班]
- 2年生 青山恭子 (静岡県 静岡市) 阿部雪子 (宮城県 仙台市)
荒井典子 (長野県 松本市) 臼井啓祐 (静岡県 富士市)
[以上4班]
奥田江美子 (東京都 世田谷区) 高田千穂 (富山県 中新川郡)
玉井芳恵 (長野県 東筑摩郡) 陳春玲 (中国 浙江省 寧波)
[以上5班]
深澤史愛 (長野県 東筑摩郡) 古田知子 (愛知県 知多市)
村松咲穂里 (山梨県 西八代郡) [以上6班]

* 括弧内は母方言を示す

* 「信大日本語教育研究会有志」は、2003年度信州大学人文学部
「現代日本語学演習Ⅰ」の参加者を指す

まえがき

日常会話において無意識のうちに多くの比喩が使われている。

比喩表現というのはその言語社会が有している文化が反映されるものであるため、日本語学習者にとって捉えにくいものとなっているようだ。これは他言語を学ぶ日本人にしても同じことである。例えば、英語で「Oh, my God.」という語がある。意味は「本当？まさか！」であるが、直訳すれば「おお神よ」であり、日本人の私たちからすればどうして「おお神よ」が「本当？まさか！」の意味となるのかまったく理解できないだろう。しかし言語を習得する時にはそのような疑問は一旦排除して、ただ頭に詰め込むしかないであろうか。

『レトリックと人生』(1986 G・レイコフ M・ジョンソン 大修館書店) では、Time is money. <時は金なり> You're wasting my time. <君は僕の時間を浪費している> This gadget will save your hours. <この機械装置を使えば何時間も節約できる> と例に挙げ、時間と言う語は「浪費」や「節約」という金銭に関する概念と同じ枠組みで理解されていると述べている。このようにその文化における認識の様相を言語に使用された比喩を通して知ることが出来るのである。またこうした認識のあり方と比喩の様式は万国共通というわけにはいかず、言語ごとに異なっている。

これと同様に日本語における身体名称を含んだ慣用句でも、各身体名称がある特定の事柄の比喩として意味を持ち、使われている。例えば、「足」という身体名称には「足が早い」「足を運ぶ」という慣用句があるが、両者とも「足」は身体的な「足」を直接指しているわけではなく、「スピード」や「歩み」という概念を持った比喩表現となっている。

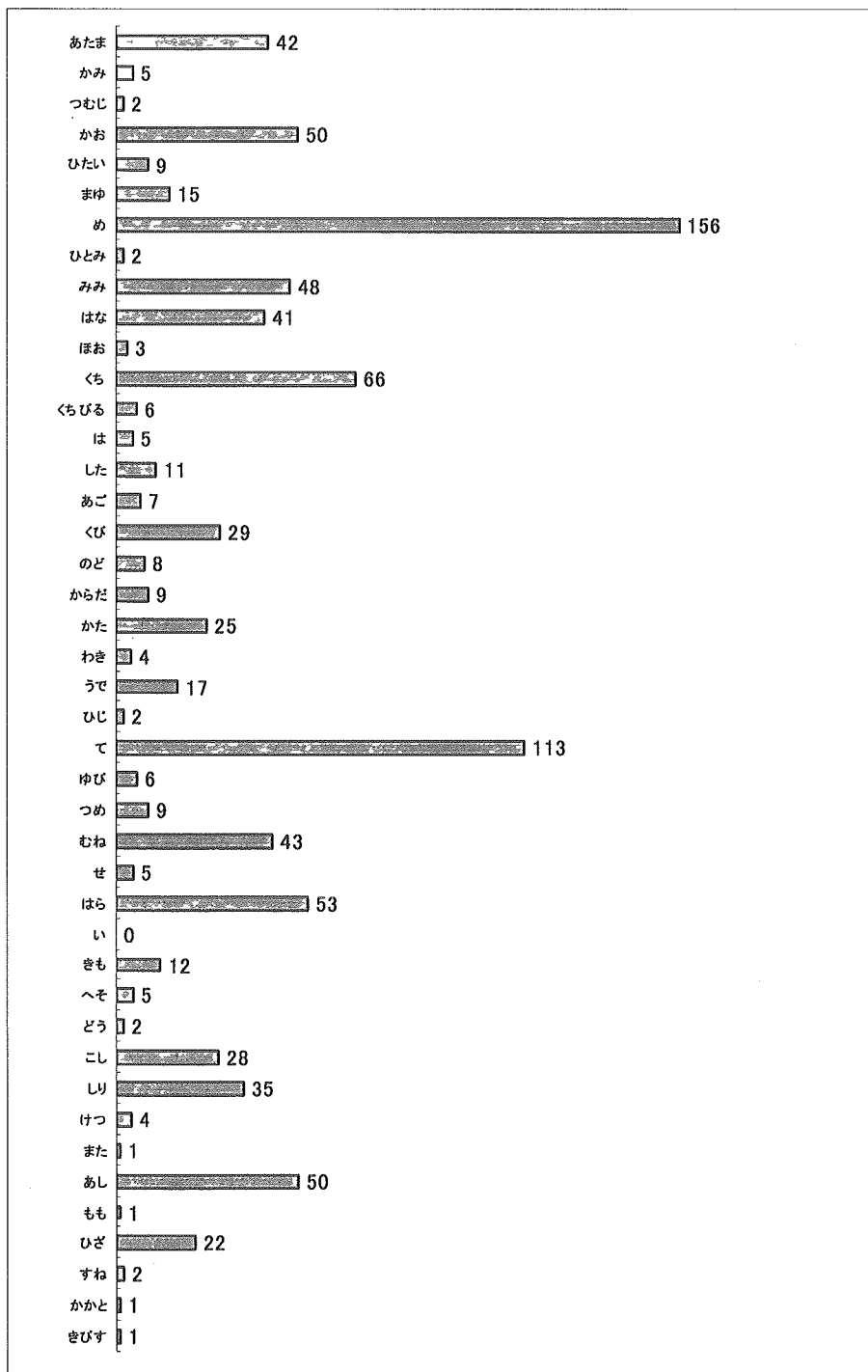
以上のことを踏まえ、日本語における比喩表現の認識のあり方と比喩の様式に焦点をあて、他言語のそれと比較しながら調査を進めていけば、類似点や相違点を発見できるかもしれない。また、「足」と「スピード」の関係のように身体名称と比喩的意味の関係を説明し、さらには各身体名称の慣用句を比喩的意味を基準としていくつかの項目に分類できれば、ただ闇雲に一語一語覚えていくしかなかった日本語学習者は、分類された項目を参考に複数の慣用句を関連付けてまとめて覚えていくことができるようになるだろう。またそれにより言語の習得が容易になるかもしれない。これが実現すれば日本語教授法にとっても非常に有益であるであろう。本資料は今後このような研究を進めていくにあたって重要かつ有効な資料になると考える。この資料が日本語学習者及び日本語教育者の助けになることを願う。

なお、参考として本資料に収録した身体慣用句を、語別に計量すると以下の通りであった。度数分布とグラフで示す。(臼井啓祐)

〔表〕 現代日本語における身体語別慣用句数

身体語	慣用句数	身体語	慣用句数
あたま (頭)	42	ひじ (肘)	2
かみ (髪)	5	て (手)	113
つむじ (旋毛)	2	ゆび (指)	6
かお (顔)	50	つめ (爪)	9
ひたい (額)	9	むね (胸)	43
まゆ (眉)	15	せ (背)	5
め (目)	156	はら (腹)	53
ひとみ (瞳)	2	い (胃)	0
みみ (耳)	48	きも (肝)	12
はな (鼻)	41	へそ (臍)	5
ほお (頬)	3	どう (胴)	2
くち (口)	66	こし (腰)	28
くちびる (唇)	6	しり (尻)	35
は (歯)	5	けつ (穴)	4
した (舌)	11	また (股)	1
あご (顎)	7	あし (足)	50
くび (首)	29	もも (腿)	1
のど (喉)	8	ひざ (膝)	22
からだ (体)	9	すね (脛)	2
かた (肩)	25	かかと (踵)	1
わき (脇)	4	きびす (踵)	1
うで (腕)	17		

〔図〕 現代日本語における身体語別慣用句数



凡 例

1. 本資料は、『日本国語大辞典第二版』(全 13 巻 2001 年 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編 小学館)から身体に関する語 43 語を抜き出し、現代日本語として使用または理解されている身体慣用句が一覧できるように作成したものである。
2. 身体語については、「頭」「首」など単純語のみを対象とし、「眉間」「爪先」などの複合語は除いた。ただし「唇」は複数の慣用句を持つため、複合語であるが、対象とした。
3. 本資料の身体語の配列は、頭から足へ向かう身体の位置関係に従って行った。
4. 身体慣用句は、身体語が句頭に位置するもの(「頭に浮かぶ」「首を長くする」など)に限定して収録した。身体語が句の途中で位置するもの(「地に足がつく」「長い目で見ると」など)については収録していない。
5. 現代日本語として使用または理解するかどうかの判定は、信州大学人文学部 2003 年度現代日本語学演習Ⅰ(沖裕子教官)の出席者である学生 21 名の判断による。(学部 2~4 年、出身地は 1 都 13 県に及ぶ。外国語母語話者は判定には加わっていない。)これらの学生が 2~5 名の班にわかれ、各班が別記の通り各身体語を担当した。班員のうち 1 人でも、現在までに聞いたことがある、または実際に使用すると判断した慣用句はすべて資料に掲載した。
6. 見出しに関しては、『日本国語大辞典第二版』の漢字表記をそのまま転載した。
7. 『日本国語大辞典第二版』には、使用された年代や方言といった位相の記載があるが、「方言」と注記のある慣用句については、収録対象から除いた。
8. 語釈が 2 つ以上にわかれる場合は、上記辞典で使用されている①②…という記号をそのまま引用した。なお以下のように、例えば語釈①が抜けているものは、②・③の用法でのみ使用すると判断したものである。

例：あしを懸ける ②ある年齢に達しようとするほどになっている。手がとどく。
③干渉する。手出しをする。
9. 解説を親見出しにゆだねている場合は、親見出しの語釈を下に転載した。

例：めの敵 ⇒親見出し
なにかにつけて憎んで敵視すること。
10. 反対語・反義語を語釈の後に示している場合は、そのまま引用した。

例：くちが堅い 言うてはならないことを他言しない。また、そのような性質で

ある。饒舌ではない。⇔口が軽い。

11. 語釈の後に参照項目が示されているものは、その参照項目が本資料にも収録してある場合のみ、そのまま引用した。

例：かおに障る 名誉にさしさわる。面目を傷つける。→顔にかかわる。

12. 自動詞・他動詞の区別、または活用の種類の違いなどで語釈がわけられている場合には□□…という記号をそのまま引用した。

例：てに入る □（「入る」が自動詞四段活用の場合）

①自分の所有となる。

□（「入る」が他動詞下二段活用の場合）→てに入れる。

13. 同一語釈の中で、特に位相・用法の違いなどによってさらに分けられている場合には①②…という記号をそのまま引用した。なお以下のように、例えば語釈①②が抜けているものは、①②の用法でのみ使用すると判断したものである。

例：めを見合わせる 互いに相手の目を見る。

①目くばせをする。

②他の人がどういう態度に出るかようすをうかがったり、驚きあきれたりして、互いにことばもなく顔を見つめる。
顔を見合わせる。

（荒井典子・奥田江美子）

詳細目次

あたま (頭)	1 班	40	せ (背)	3 班	75
かみ (髪)	1 班	41	はら (腹)	5 班	75
つむじ (旋毛)	1 班	42	い (胃)	5 班	77
かお (顔)	1 班	42	きも (肝)	5 班	77
ひたい (額)	1 班	44	へそ (臍)	5 班	78
まゆ (眉)	1 班	44	どう (胴)	5 班	78
め (目)	1 班	45	こし (腰)	5 班	78
ひとみ (瞳)	1 班	53	しり (尻)	4 班	79
みみ (耳)	1 班	53	けつ (穴)	4 班	81
はな (鼻)	1 班	55	また (股)	4 班	81
ほお (頬)	6 班	57	あし (足)	4 班	81
くち (口)	6 班	57	もも (腿)	4 班	84
くちびる (唇)	6 班	60	ひざ (膝)	4 班	84
は (歯)	6 班	60	すね (脛)	4 班	85
した (舌)	6 班	60	かかと (踵)	4 班	85
あご (顎)	6 班	61	きびす (踵)	4 班	85
くび (首)	5 班	61			
のど (喉)	6 班	63			
からだ (体)	5 班	63			
かた (肩)	2 班・3 班	63			
わき (脇)	2 班・3 班	64			
うで (腕)	2 班	65			
ひじ (肘)	2 班	66			
て (手)	2 班	66			
ゆび (指)	2 班	72			
つめ (爪)	2 班	73			
むね (胸)	3 班	73			

あたま【頭】

あたまが上がる ①対等の立場に立って相手に向かう。普通、下に打消の表現を伴って、相手の権威や力にひけ目を感じ、対等の立場に立てないことや、弱味を握られている相手に屈服することという。

あたまが痛い 心を悩ませる。悩みの種である。

あたまが重い ①頭が重苦しく感じられて、すっきりしない。頭痛がする。
②心配ごとがあつて気分がすぐれない。

あたまが切れる 頭の回転が速く、機敏に物事を処理できる。頭脳の働きが鋭い。

あたま隠して尻隠さず
(キジが、草の中に首を隠して、尾の現われているのを知らないのに比していう) 悪事などの、一部分を隠して、全部を隠したつもりでいるのをあざけつていう。

あたまが下がる 敬服させられる。尊敬の気持が起こる。

あたまが=足りない[=足らない]
頭の働きが普通以下である。知能が遅れている。

あたまが回る 思い至る。考えが及ぶ。気が付く。

あたまから爪先まで
上から下まで。一から十まで。全部。頭のとっぺんから足の先まで。

あたまから水を=浴びたよう[=打ちかけられたよう]
突然に事が起こり、驚き恐れてぞっとするさま。

あたまから湯気を立てる
非常に怒るさまをいう。かんかんになって怒る。

あたまが割れるよう
頭痛のひどいことのたとえ。

あたまてんでん 幼児に向かっていう語。頭を両手で軽く打つ戯れ。おつむてんでん。

あたまに入れる しっかりと記憶する。念頭に入れる。

あたまに置く 心にとどめて忘れないようにする。念頭におく。

あたま=に[=へ]来る
①怒りや悲しみや驚きなどのために、頭に血がのぼる。かっとなる。のぼせる。逆上する。
②酔いや病毒などが頭にまわる。
③気が変になる。

あたまに付く 頭の中から離れない。脳裏を去らない。心から離れない。

あたまに入る 理解して受け入れる。納得する。

あたまの回転が早い
頭脳のはたらきが機敏である。次から次へと考えが及ぶ。

あたまの皿 ①頭のとっぺんの皿状の部分。脳天。頭蓋骨。頭の鉢。
②河童の脳天にあるという皿状の部分。

あたまの=てっぺん[=ぎりぎり]から足の爪先まで
(「ぎりぎり」は頭の旋毛) 全身全部。上から下まで。また、一から十

まで、全部。徹頭徹尾。

あたまの蠅を追う

人のおせっかいをしないで、自分一身の始末をする。通常、自分の始末が第一であるという場合に用いる。

あたまを上げる ①頭を上の方へあげる。

あたまを痛める 心配事、苦勞で頭を痛くする。あれやこれやと心配する。

あたまを押える 相手の力を抑制する。高飛車に出る。

あたまを抱える どうしたらよいかわからないで頭を両手で抱える。非常に困る。

あたまを掻く 恥ずかしく思ったりはにかんだりして、思わず頭に手をやって軽くかく。失敗を恥じたり、はにかんだりする。閉口する。

あたまを下げる ①おじぎをする。かしらをさげる。

②自分が下位であることを認める態度をとる。相手に物を頼む時に使われることが多い。へり下る。下手に出る。

③相手がすぐれていることを認める態度をとる。感心する。

あたまを擗る 一所懸命に考える。考えられる限りの工夫をする。頭を砕く。

あたまを出す ①姿を見せる。顔を出す。かくれていたものが現われる。

②勢力を得たり、能力を発揮したりなどして人から認められるようになる。頭角を現わす。台頭する。

あたまを垂れる 元氣なく、うなだれる。しょげる。しおれる。また、謙虚な気持を抱く。

あたまを使う よく考える。また、思いを巡らす。思案する。

あたまを突っ込む

ある仕事や仲間などに加わる。

あたまを悩ます 思い悩む。困って考えこむ。苦悩する。

あたまを生やす 髪をはやす。転じて、還俗する。

あたまを張る ①頭をうつ。頭をなぐる。

あたまを拵る 頭を傾けて考える。いろいろ工夫をめぐらしたり、疑問を持ったりすることという。首をひねる。

あたまを冷やす 興奮を静め、冷静になる。

あたまを振る 頭を横に振ってことわる。拒否する。

あたまを丸める ①頭髪をそる。転じて、出家する。僧になる。

あたまを=擡げる [=持ち上げる]

①押えていた、また、隠れていたある考え、疑い、気持などが浮かび上がってくる。あたまを上げる。

あたまを分ける 頭髪を左右に分ける。頭髪にくしの目を入れる。

かみ【髪】

かみ洗う 頭の髪のを洗う。

かみの裾 垂れ下がっている髪の先のほう。

かみの長きは七難隠す

女の髪の毛が長ければ、他のすべての欠点を隠す。女の髪の毛の長いこと

が、女を美しく見せる最高の条件であることをいう。

かみを下ろす 髪を剃り落として僧になる。また、髪を短く切って尼になる。剃髪をする。
落飾する。

かみを生やす ①頭髪をのばす。

つむじ【旋毛】

つむじが曲がる 素直でなくなる。根性がねじける。片意地になる。ひねくれる。また、
性質が風変わりで言動が普通の人と異なる。

つむじを曲げる 気分をそこねてわざとさからい、意地悪くする。わざと反対して従わな
い。感情を害して片意地をとおす。

かお【顔・貌】

かおが合う ①人と人とはが合う。また、両方で同時にふと見合う。目と目があう。

かおが厚い 遠慮やはじらいなどの気持がなく、ずうずうしい。あつかましい。厚顔で
ある。顔の皮が厚い。

かおが合わされる

会うことができる。恥ずかしさや不名誉な気持を持たないで、その人に会
うことができる。打消を伴って、面目なくて会えないの意に用いることが
多い。

かおが売れる 世間に広く知られるようになる。有名になる。顔ききになる。顔が通る。

かおが利く 権力などをもっていて、その人が出ることによって無理な事でも通る。ま
た、そのような存在である。

かおが染まる 恥ずかしさや後ろめたさなどから顔が赤くなる。

かおが揃う 会合や催しなどに、予定された人たちが集まる。顔ぶれがそろふ。

かおが立つ 世間に対する名誉が保たれる。面目がたつ。

かおが潰れる 世間に対する名誉を失う。面目を失う。

かおが通る 「かおが売れる」に同じ。

かおが広い 世間に知り合いが多い。

かおが汚れる 名誉が傷つけられる。つらがよごれる。つらよごしである。

かおから火が出る

恥ずかしくて顔がまっかになるさまにいう。

かおで笑って心で泣く

外見はほがらかそうだが、実際は悲しみをこらえているさまにいう。

かおにかかわる

名誉、身分に関係を及ぼす。面目にさしさわる。

かおに障る 名誉にさしさわる。面目を傷つける。→顔にかかわる。

かおに出す 気持を表情に表わす。表情に出す。

かおに出る 気持が表情に表われる。表情に出る。

かおに泥を塗る

名誉を傷つける。面目を失わせる。恥をかかせる。顔をよごす。

かおに紅葉を散らす

恥ずかしさや怒りなどのために顔を赤らめることをしやれていう語。顔に火を焚く。

かおの皮が厚い

「かおが厚い」に同じ。

かおを=赤める[=赤くする]

①恥ずかしがって赤面する。顔に紅葉を散らす。

②興奮したり立腹したりして顔色を赤くかえる。

かおを=合わせる[=合わす]

①顔を向き合わせる。会う。

②演劇、映画などで共演するようになる。顔が合う。

③対抗試合などで競技を争う組合せとなる。顔が合う。

かおを失う

①がっかりする。落胆する。顔色を無くす。

②面目を失う。

かおを売る 世間に広く知られるようになる。はばをきかせる。

かおを落とす 顔に塗った白粉や紅などを洗うなどして取り去る。化粧を落とす。

かおを変える 興奮したり立腹したりして顔つきを変える。顔色を変える。血相を変える。

かおを貸す ①他人から頼まれて、人に会ったり、人の面前に出たりする。つきあう。

かおを借りる 頼んで、人に会ったり人前に出たりしてもらう。

かおを利かす その人の持っている権力などで、無理と思われることをも押し通したり、事を有利に運んだりする。

かおを拵える 「かおをする②」に同じ。

*かおをする ②顔に化粧をほどこす。顔をつくる。顔をこしらえる。

かおをする ①(ある表情や気持を表わす語に続けて)その表情をする。「面白い顔をする」「いやな顔をする」

かおを染める 恥ずかしさなどのために顔を赤くする。顔に紅葉を散らす。

かおを揃える ①主だった人たちが全員出席する。一堂に会する。

②顔ぶれを集める。

かおを出す ①姿を見せる。顔を見せる。

②人の家をたずねる。また、あいさつに行く。

③集会や会合に出席する。

④ある物が、その一部分だけ外に見える。

かおを=立てる[=立つ]

その人の名誉を保たせる。その人の面目が保たれるようにする。

かおを突き合わす

「かおを合わせる」を強めた言い方。

かおを作る ①無理にそのような顔をする。

②顔に化粧をほどこす。おつくりをする。めかす。顔をこしらえる。顔をする。

かおを繋ぐ 紹介する。また、知り合いの関係を保っておく。顔つなぎをする。

かおを=潰す[=踏み潰す]

その人の名誉を傷つける。面目を失わせる。

かおを連ねる 主だった人たちが列席する。顔をそろえる。

かおを直す ②顔の化粧をする。化粧くずれを直す。

かおを=拭う[=おし拭う]

①顔のよごれをふきとる。顔を清める。

かおを覗かせる

顔を出す。姿が見え隠れする。その名前がちらと出る。

かおを膨らかす

不平そうに顔をふくらませる。また、怒りを含んだ顔をする。

かおを振る ①顔を振り動かす。

②不承知の意で頭を振る。

③顔をわきへ振り向ける。顔をそむける。よそを見る。恐れ、不承知、嫌悪、無視どの気持を表わす。

かおを見返す かつて自分を侮った者に、優位に立った自分を誇示してみせる。

かおを見せる 「かおを出す」に同じ。

かおを向ける ①他人と顔を合わせる。顔を合わす。打消を伴って、面目のない意にいう。

②ある一方の物事に関心や好意を示す。

かおを汚す 「かおに泥を塗る」に同じ。

ひたい【額】

ひたいに汗する 一所懸命に働く。

ひたいに筋を=立てる[=現わす]

額に青筋を浮き出させて腹を立てる。激昂するさまにいう。

ひたいに手を当てる

①喜ぶさま、喜びの動作をいう。

ひたいに波をたたえる

ひたいにしわがある。

ひたいの波 年をとって額に現われるしわ。

ひたいを集める 互いに近寄って額を付け合うようにして相談をする。集まって相談する。額をつどう。

ひたいを合わせる

互いに額が付くほどに近く寄る。

ひたいを突き合わせる

額を付け合うようにして相談する。額を集める。

ひたいを集う 「ひたいを集める」に同じ。

まゆ【眉】

まゆに皺を寄せる

「まゆを顰める」に同じ。

まゆに唾をつける

(狐、狸などにだまされないように眉に唾をつけるというところから) 欺かれないように用心する。眉毛に唾をつける。眉毛を濡らす。

まゆに八字を作る

眉の外側の端を下げて、八の字にする。困ったり、悲しんだりするさまにいう。

まゆの毛を逆様になす

「まゆを上げる④」に同じ。

まゆの根 「まゆね」に同じ。

*まゆね 眉の根元。また、眉。眉の根。まよね。

まゆを上げる 眉毛をつりあげる。

④怒ったさまをいう。眉の毛をさかさまになす。

まゆを動かす ふと心中の思いを表情に出す。また、心配や憂い、動揺、不快感などのために顔をしかめる。

まゆを落とす ②眉尻を下げる。悲しみ、落胆、心配、気おくれ、後ろめたさなどのさまをいう。

まゆを描く 眉墨を塗って眉の形を整える。

まゆをしかめる

「まゆを顰める」に同じ。

まゆを抜く 眉をかくために眉の毛を抜く。昔は、女子は成年に達すると、眉の毛を抜いて、その上に眉墨を引いた。

まゆを引く 眉墨で眉をかく。また、人妻が、眉をかいて遊女となる。

まゆを顰める 心の中に心配事や憂いごとがあったり、他人のいまわしい言動に不快を感じたりして、顔をしかめる。眉根を寄せる。眉根を顰める。眉をしかめる。眉を寄せる。眉を集める。眉を曇らす。眉にしわを寄せる。

まゆを寄せる 「まゆを顰める」に同じ。

まゆを読む 相手の顔の表情から、その人の心を推しはかる。

め【目・眼】

めが合う ②視線が合う。

め=[を]洗われる

物事の新しい面を見る。これまで見えなかったものが見えるようになる。

めがある ①鑑賞したり洞察したりする力がある。見る目がある。

めがいい ①視力があって、ものがよく見える。

②鑑識力がすぐれている。

めが行く 目が向く。見て目をとどめる。心がひかれて視線がそちらに向く。

めが霞む ①老衰や病気、疲労などのために視力が衰えて、霞がかかっているように、物がぼんやりとしか見えない。

②判断力が鈍る。物事を正しく見る力が不十分になる。

めが利く ①鑑識力がすぐれている。鑑定がじょうずである。

- めが眩む ①目がかすむ。
②目まいがする。目がくらくらとする。目がくれる。
③強い光にうたれたり、神仏の忌諱にふれたりして、一時目が見えなくなる。
目がくれる。
④あるものに心を奪われて、正常な判断ができなくなる。目がくれる。
- めが肥える 同じ種類のものをたくさん見て、その価値を見分ける力がつく。いいものを見なれて鑑識力が増す。
- めが冴える 神経がたかぶって眠れなくなる。また、目がはっきりとさめる。
- めが覚める ①眠りからさめる。眠気が去る。めざまめる。
②眠気の去るような思いがする。新鮮な感じがする。多く、連体修飾に用いる。めざまめる。
③心の迷いが去って本来の姿に立ちかえる。自覚して、罪や非を悔い改める。めざまめる。
- めが据わる じっと一点を見つめて目の玉が動かなくなる。酒に酔ったり怒ったりしたさまにいう。
- めが高い 鑑識力がすぐれている。目がきく。
- めが近い 近視である。
- めが潰れる ①目が見えなくなる。盲目になる。尊貴なもの、高価なものを直視することをはばかって「目がつぶれそう」などという。
- めが出る ①「めが飛び出る」に同じ。
②（振った賽によい目が出る意で）幸運がめぐってくる。
- めが点になる
（漫画で、目を点のように描いて驚きの表情を表わすところから）ひどくびっくりする。あっけにとられる。「あまりの変わり身の早さに目が点になる」
- めが届く ①（遠くにあるものなどが）肉眼に見える。見渡せる。
②注意がいきとどく。監視がいきわたる。
- めが飛び出る
驚いて目の玉が飛び出すような感じになる。
④値段が驚くほど高いことにいう。
⑥広く、あっと驚くほどのことであるのにいう。
- めが留まる 多くの中で、特にあるものに注意が向く。
- めが無い ①心を奪われて、思慮・分別をなくすほどである。われを忘れるほどそれが好きである。
②正しく判断したり、見きわめたりする知恵がない。物事を的確に判断できない。
- めが長い 寛大である。寛容である。
- めが離せない
いつも、注意、監督をしていなくてはならない。常に見守っていなければならない。
- めが早い 目を付けるのが早い。見つけるのがすばやい。抜け目がない。

めが光る 監視がきびしくなる。

めが細くなる

うれしさのため、または、愛らしいものなどを見て、それにさそわれて目を細めてほほえむ。

めが回る 目がくらむ。めまいがする。また、非常に忙しいさまを形容するのにもいう。
目が舞う。

めが物を言う

目つきや目くばせなどで相手に気持を伝える。

めから鱗が落ちる

新約聖書の「使徒行伝」から出たことば。何かがきっかけとなって、急に物事の事態がよく見え、理解できるようになるというような場合のたとえとして用いられる。

め=から[=より]鼻へ抜ける

怜悯で物事の判断などの素早いさまをいう。

めから火が出る

顔や頭などを強くうちつけたとき目の前が真暗になり、一瞬光の交錯することをいう。

めじゃない 「めでない」に同じ。

めで追う 動きに従って視線を動かす。また、順を追って目を動かす。

めで教える 「めで知らせる」に同じ。

めで殺す 色目をつかって相手を悩殺する。

めで知らせる

ことばの代わりに、目もとに表情をつくって意思を伝える。目で教える。

めでない たいしたことはない。問題ではない。論外である。めじゃない。

めで物を言う

目くばせをして意思を通ずる。

めと=鼻[=鼻の間・=鼻の先]

二つの間の距離のきわめて近いことのたとえ。

めに遭う ひどい目にあう。難儀する。

めに余る ②程度がひどすぎて、黙ってみていられないほどである。

めに遭わす ひどい仕打ちをする。痛い目にあわせる。

めに入る 自然に目に見える。また、目にとまる。目にはいる。

めに入るよう

ひどくかわいがるさまをたとえていう。

めに入れても=痛くない[=えずくない]

かわいくてかわいくてたまらないさま、盲愛するさまをたとえていう。目の中に入れても痛くない。

めに言わせる

ことばに出さないで、目つきで意思を通じさせる。

めに浮かぶ そのときの姿やさまが目の内に再現される。

めに浮かべる

姿や様子などをありありと思い浮かべる。

めに掛かる ①みえる。目にとまる。

②（多く上に「御」を付けて）目上の人に会う。

めに掛ける ①目にとめる。また、めざす。

②（多く上に「御」を付けて）見せる。御覧に入れる。

③ひいきにする。特別に面倒を見る。

④秤に掛ける。

めに角を=立てる[=入れる]

怒った目付きで鋭く見る。目角を立てる。

めに障る ①目にとって毒になる。転じて、見ることによって、気にさわる。見て不愉快になる。

めに染みる ①目に水や煙などがはいって痛く感じる。

②目の奥底までとどくくらいに、姿、形、景色などがあざやかで印象深く思われる。

③見慣れて十分目の底にしみこむ。見て十分なじむ。また、見慣れて古くさく思われる。見飽きる。

めにする 実際に、自分の目で見る。目撃する。

めにちらつく

見えたり消えたりする。また、目に浮かんだり消えたりする。

めに付く ①見たものの形や色が目にしみ付いて離れなくなる。

②見て気に入る。

③目にとまる。目立って見える。はっきりと見える。

めに留まる ①心がひかれる。注意が引きつけられて印象に残る。気に入る。

めに留める 心に注意してじっと見る。心にとめて見る。

めに入る ①小さいことやかわいらしいことを形容するという。

②自然に目に見える。視野にはいる。

めには目、歯には歯

自分が受けた害に対して、同様な仕返しをすることのたとえとして用いられる。バビロニアのハンムラビ法典にあることばであり、旧約聖書にも出てくるが、イエス・キリストが「山上の垂訓」のなかで用いたことにより、有名になった。

めには目を 「めには目、歯には歯」に同じ。

めに触れる 見える。目にはいる。目につく。

めに見える 見た目にはっきりそれとわかる。確実に予測できる。

めにも留まらぬ

あまりに速くてはっきりと見定めることができない。

めに物言わす

目づかいで相手にこちらの意を知らせる。目にいわせる。

めに物見せる

②相手をぎゃふんといわせる。ひどい目にあわせる。思い知らせる。

めの色 目つき。眼色。

めの色が違ってくる

「めの色を変える」に同じ。

めの色=を変える[=が変わる]

目つきをかえる。また、血走った目つきになる。怒りや驚き、また何かに熱中するさまの表現に用いる。

めの色=見る[=読む]

相手の目の表情を見て、その心中をうかがう。顔の表情によって気配を察する。顔色を読む。

めの上の=瘤[=たん瘤]

自分よりも力が上で、何かと目ざわり・邪魔になるもののたとえ。また、単に邪魔なものという場合もある。

めの敵 ⇒親見出し

なにかにつけて憎んで敵視すること。

めの薬 ①目薬。

②それを見ることによって、心の慰みとなるもの。目を楽しませてくれるもの。

めの黒い内 生きているうち。存命中。目の玉の黒い内。

めの下 ①目のすぐ下の部分。「目の下に隈ができる」

②見おろすすぐ下。眼下。

めの尻 「めじり」に同じ。

*めじり 目の、耳に近い方のはし。目の尻。まなじり。まじり。

めの玉 ⇒親見出し

めだま。まなこ。がんきゅう。

めの付所 要点のとらえどころ。着眼点。

めの毒 見ると害になるもの。見て苦痛となるもの。また、見ると欲しくなるもの。

めの中に入れても痛くない

「めに入れても痛くない」に同じ。

めの保養 「めの正月」に同じ。

*めの正月 (「正月」は一年中で一番楽しいときであるところからいう) 美しい物、珍しい物を見て楽しむこと。また、そのもの。目の保養。目正月。

めの前 ①見ている前。まのあたり。目前。眼前。

②見ている間にすぐに結果が現われるさま。時間的、空間的にごく近いさま。目前。また、明白なさま。たやすいさま。

めの前が暗くなる

ひどく失望したり、落胆したりしたときの気持にいう語。

めの遣場に困る

相手のどこに視線をやったらいいかわからず、まごつく。

め=は[=も]口ほどに物言う

情のこもった目つきは、口で話すのと同じ程度に気持を相手に伝える。

めは心の窓 目はその人の心の中をのぞかせる窓である。目を見れば、その人の善悪がわかるということ。目は心の鏡。

めも当てられず

あまりにもひどくて正視することができない。悲惨で見るに堪えない。

めも合わず ⇒めが合う

めも及ばず (すべてを見てとることができないの意)

②非常に速くてよく見えない。目にもとまらない。

めもくれず 少しの興味・関心も示さない。見向きもしない。無視する。

めも無く 目がなくなるほど細くして。非常に喜んだり笑ったりするさまにいう。

めもふらず 目をその方に向けようとしない。見向きもしない。目もくれず。

めを明かす 思慮分別をつけさせる。迷いなどから目ざめさせる。

めを明く 思慮分別がつく。迷いなどからさめる。

めを明ける ②「めを開く」に同じ。

めを上げる 視線を上方に移す。

めを洗う 目を洗われた気分になる。あまりの清新さに、すがすがしい感じになる。

めを合わす ①まぶたをとじ合わせる。目をつぶって眠る。

②視線を合わせる。出会う。また、目と目を見交わす。目で合図する。

めを射る 目にはいる。目にとび込む。また、光が輝いて、強く目を照らす。

めを入れる ②人物や動物の絵画・彫像、また、達磨などに、目を書き入れる。

めを疑う 見た自分の目が信じられないほど不思議である。びっくりするほど意外なことにいう。

めを移す それまで見ていた所から別の方を見る。視線を転ずる。

めを奪う あまりの美しさ、立派さなどで、すっかり見とれさせる。驚嘆させ夢中にさせる。

めを覆う 目隠しをして見ないようにする。事実を直視しないようにする。目を背ける。

めを送る その方へ視線を向ける。

めをおこす 視線を向ける。気をつけて見る。

めを落とす ①目を下に向ける。視線を下に落とす。下を向く。

めを驚かす あまりの壮麗さや物の多さなどに、驚嘆して目を見張る。

めを輝かす 目をきらきらさせる。喜びや期待などで興奮しているさまをいう。

めを掛ける ①じっと見る。よく見きわめる。見入る。

②目をつけてねらう。手に入れよう、あるいは相手にしようとして、ねらいをつける。

③注意して面倒を見る。世話をする。いたわる。ひいきにする。めがける。

めを掠める 人に見られないように、ひそかにする。目を盗む。

めを借りる 他人に見てもらおう。他人に確認してもらおう。

めを配る ①注意して方々を見る。目くばりをする。

②目をやって合図する。目くばせする。

めを=晦ます[=晦まかす]

人に見つけられないようにする。また、ごまかして正しく見えないようにする。人の目をごまかす。

めをくれる そちらに注意を向ける。興味や関心を示す。

めを肥やす ①楽しいもの、良いものを見て楽しむ。目を楽しませる。

②良いものを多く見て、見識を広め高める。

めを凝らす じっと見つめる。凝視する。

めを遮る 見えないように目を隔ておおう。物が目の前に現われて視線をふさぐ。

めを覚ます ①眠っている状態から起きる。目ざめる。また、眠らないでいる。

②びっくりする。意外なことにあつて驚く。

③意識を正しく呼びおこす。迷っているのを正しい道にもどす。

④何かがかきかけとなって、それまで気がつかないでいた本心や現状などを自覚する。

めを皿にする

目を大きく見開く。物を探し求めたり、凝視して細かく見分けたり、驚いたりした時などのしぐさにいう。

めを三角にする

目に角を立ててこわい目つきをする。目を怒らす。

めを忍ぶ 人目にかからないようにある事をする。目立たないように事をする。目を盗む。

めを白黒させる

①もだえ苦しんで、目の玉を動かす。

②びっくり仰天してあわてる。ひどく驚き、まごつくさまの形容。

めを据える 目の玉を動かさないうで、一点を見つめるようにする。激怒したり、酒に酔ったりした時などの形容。

めを擦る 目をぬぐう。目をこする。

めをする ②（連体修飾語を受けて）そのような目つきをする。

③（連体修飾語を受けて）そのような境遇、状態になる。目を見る。目に遭う。

めを注ぐ ①目をそちらに向ける。

②注意して見る。注目する。

めをそばだてる

②目をみはる。

めを背ける 見るに耐えられなくて、視線をそらす。また転じて、かかわり合いを避けたり、逃避することをいう。

めを逸らす 見つめていた目を他の方へ移す。視線をはずして他の方へ向ける。目をはずす。

めを使う ②よく目を開いて見る。注意を払って見る。

めを付ける ①じっと様子を見る。目星をつける。注視する。

②特別な注意を向ける。関心を寄せる。

- めを瞑る ①眼を閉じる。眼を閉じて眠る。目をふさぐ。
 ②死ぬ。目をふさぐ。
 ③知っていて知らないふりをする。見て見ぬふりをして、欠点などをとがめないでいる。目をふさぐ。
 ④がまんする。あきらめる。
- めを通す ①ざっと見る。ひととおり見る。通覧する。
- めを留める 注意して見る。心をとめて見る。注目する。
- めを長くす 短気を起こさないで見る。我慢して見る。
- めを慰む 見る目を楽しませる意から、見て楽しむことをいう。
- めを盗む 人に見つかからないように、こっそりと事を行なう。人目を忍ぶ。
- めを外す 「めを逸す」に同じ。
- めを離す 目を、注意していたものからそらす。わき見をする。
- めを憚る 人に見られることを恐れる。
- めを=光らす[=光らせる]
 眼光鋭く見る。また、あやしいとにらんで監視する。
- めを引く ①人の注意を向けさせる。他人の目にとまるようにする。
- めを開く 知識を得たり、また真理を悟ったりして新しい境地を知る。
- めを塞ぐ ①「めをつぶる①」に同じ。
 ②「めをつぶる②」に同じ。
 ③「めをつぶる③」に同じ。
- めを伏せる 相手から視線をそらしてうつむく。
- めを=細くする[=細める]
 うれしきや目にするものの愛らしきなどに誘われてほほえみを浮かべる。
- めを丸くする
 ①目を大きく見開く。
 ②特に、驚いて目を見張るさまにいう。
- めを回す ①気絶する。
 ②忙しくあわて惑う。忙しいおもいをする。
 ③ひどく驚く。
- めを見合わせる
 互いに相手の目を見る。
 ◎目くばせをする。
 ◎他の人がどういう態度に出るかようすをうかがったり、驚きあきれたりして、互いにことばもなく顔を見つめる。顔を見合わせる。
- めを見張る 目を大きく見開く。怒ったり驚いたりした時などの様子にいう。目を張る。
- めを見る ①相手の目を見る。対面する。
 ②…の目にあう。…の経験をする。
- めを=剥く[=剥き出す]
 怒ったり、驚いたりなどして目を大きく見開く。目玉をむく。
- めを貰う しかられる。お目玉をもらう。

めを遣る 視線をその方へ向ける。目を向ける。

めを喜ばす 見て楽しい気分になる。

ひとみ【瞳・眸】

ひとみを凝らす まばたきもしないで見つめる。凝視する。じっと一点を見つめる。

ひとみを据える じっと一点を見つめて視線を動かさない。

みみ【耳】

みみ疎し 聴覚がにぶい。耳が遠い。

みみ驚く ①耳にして驚く。聞いて驚く。めずらしいと聞く。

みみが痛い 他人のいうことが自分の弱点をついていて、聞くのがつらい。

みみが肥える 音楽・話芸などを聞き味わう能力が豊かになる。

みみが近い 耳がよく聞こえる。聴覚がするどい。耳が早い。

みみが潰れる 耳が聞こえなくなる。

みみが遠い 耳がよく聞こえない。聴覚がにぶい。

みみがない 人の言うことを聞き入れようとしない。聞き分けがない。

みみが鳴る 耳鳴りがする。

みみが早い 噂などを聞きつけるのが早い。すばやく物事を聞き知る。耳が近い。耳ざとい。

みみから口へ出る

他人から聞いたことをただちに受け売りする。他人から聞いた話をすぐに知ったかぶりをして語る。

みみに入る 聞こえる。他人のいうことや、音、情報などがおのずと聞こえる。また、聞いて知る。聞いて理解する。

みみに入れる はなしを聞かせる。告げ知らせる。また、聞く。聞いて知る。

みみに掛かる 聞いて心にとまる。また、注意して聞く。耳に掛ける。

みみに掛ける 聞いて心にとめる。また、注意して聞く。耳に掛かる。

みみに応える 聞いたことが深く身にしみる。言うことが大変きびしく感じられる。

みみに囁く そっと話す。内密に話す。

みみに障る ①聞いて不愉快に思う。耳に当たる。耳に逆う。

みみにする 聞く。

みみに胼胝ができる

同じことを何度も聞かされることをいう語。耳たばに胼胝。

みみに付く ①物音や声などが耳にとまって、いつまでも忘れられなくなる。

②同じことを何度も聞かされて、聞き飽きている。うるさく聞こえる。

みみに留まる ①「みみ留まる①」に同じ。

*みみ留まる ①角立って耳にさわる。耳ざわりに聞こえる。耳にはっきり聞こえる。耳立つ。耳にとまる。

みみに留める 「みみ留む」に同じ。

*みみ留む 注意して聞く。聞いて心にとめる。耳にとめる。

みみに残る 声や音が忘れられなくなる。
 みみに挟む ちらっと聞く。ふと耳にはいる。小耳に聞き挟む。
 みみに触れる 耳で聞く。耳にはいる。
 みみの垢取り 耳垢を取り除くこと。また、それを職業とした者。
 みみの穴を広げる 注意して聞く。
 みみの底 耳の奥。
 みみの日 ⇒親見出し
 耳の健康を守ることを記念して定められた日。三月三日。
 みみの保養 心地よい音を聞くこと。
 みみは=壁を伝う[=壁に付く]
 密談などのもれやすいことにいう。壁に耳。
 みみは大なるべく口は小なるべし
 聞くことは広くして知識を増し、他人に向かって言うことは控え目にするのがよい。
 みみを洗う 世俗の汚れたことを聞いた耳を、洗いきよめるの意。世俗の栄達をきびしく避けることのたとえにいう。堯帝から天下を譲ろうといわれた許由は、辞して箕山に隠れた。再び堯帝は召そうとしたが、許由は断わり、汚れたことを聞いたと潁水で耳を洗った。巢父も堯帝から同じことをいわれたが、許由が耳が洗っている所を牛を引いて通りかかり、そのような汚れた水を牛に飲ませるわけにいかないと、上流に牛を引いていったという「史記・伯夷伝・史記正義」中の「皇甫謐高士伝」の故事による語。耳をすすぐ。耳を洗えば牛を引いて帰る。
 みみを疑う 聞いたことが信じられないことにいう。
 みみを驚かす 驚くべきものとして聞く。
 みみを搔く ①耳穴をほじくって掃除する。
 みみを貸す 人のいうことを聞く。また、相手の相談にのる。
 みみを傾ける 注意して聞く。熱心にじっと聞く。傾聴する。
 みみを借りる 耳元に口を寄せてささやく。
 みみを肥やす ①良い事を多く聞いて耳を満足させる。
 ②良い音楽などを聞いて鑑賞力を高める。
 みみを滌ぐ 「みみを洗う」に同じ。
 みみを澄ます 聞こうとして注意を集中する。注意して聞く。耳をそばだてる。耳をそばめる。耳を立てる。
 みみを敲てる 「みみを澄ます」に同じ。
 みみを揃える (大判、小判の縁を揃える意から) 金額を不足なく整える。
 みみを立てる 聞こうとして注意を集中する。耳を澄ます。
 みみを劈く 耳を突き破る。非常に大きな音のとどろくさまにいう。「爆音が耳を劈く」
 みみを塞ぐ 聞こえないようにする。また、しいて聞かないようにする。

はな【鼻】

- はな蠢く 鼻がびくびく動く。得意げなさまなどにいう。
- はなが高い ①得意なさまである。誇らしい。自慢らしい。
②鼻梁が高い。男性では、男根が大きく精力が旺盛であるという俗説がある。
- はなが拉げる 「はなが凹む」に同じ。
- *はなが凹む 得意だった者がやりこめられる。恥をかかせられる。
- はなが曲がる 悪臭があまりにひどく、耐えられないさまをいう。「鼻が曲がるような臭気」
- はなから提灯 いねむりをしながら、鼻汁をシャボン玉のようにふくらませて鼻の先に出すこと。
- はなであしらう 相手のことばにろくに返事もしないで冷淡にあしらう。すげない態度をする。
- はなで笑う 鼻先でふんと笑う。軽蔑した笑い方にいう。
- はな=に[=へ]掛かる 息を鼻に通して発音する。
- はな=に[=へ]掛ける 自慢する。得意がる。自慢顔をする。
- はなに付く いやな臭いが鼻を刺激する。また、飽きていや気が起こる。
- はなに手を当てる ①呼吸の状態をしらべる。寝息をうかがう。また、生命の状態を確かめる。
- はなの頭 鼻の隆起している先端。
- はなの穴 鼻にあいていて、空気が通るようになっている二つの穴。鼻腔。
- はなの脂 「はなあぶら」に同じ。
- *はな脂 鼻頭や小鼻の辺に分泌するあぶら。また、得意顔になっているさまなどにもいう。はなのあぶら。
- はなの差 わずかの差をいう。元来は競馬で、ゴール前の先着争いに馬の鼻先ぐらいの僅差で勝つことをいった。鼻差。
- はなの先 ①鼻の先端。鼻の頭。はながしら。
②すぐ目の前。近いところ。目前。まのあたり。目さき。
④通り一遍のこと。うわつらだけのこと。口先だけのこと。
- はなの先であしらう すげない態度をとる。鼻先であしらう。
- はなの先で言う すげない態度で言う。
- はなの先で笑う 相手を軽蔑したように笑う。こばかにしたように笑う。鼻先で笑う。
- はなの下 鼻と口との間の部分。また、口のこと。

はなの下が長い

女に迷いやすい。女に甘い。好色である。鼻の下の間口が広い。鼻の下が豊か。

はなの下を=長くする[=長く伸ばす・伸ばす]

女の色香に迷う。女に対してでれでれする。

はなの峰 鼻すじ。鼻ぐき。鼻ばしら。

はな塞る 鼻がつまる。

はなも=動かさず[=動かず]

顔色を変えないさま。取りすましているさま。ぬけぬけとしている様子。

はなも引っ掛けない

相手にしない。無視する。

はなを=明かす[=明かせる]

だしぬいたり思いがけないことをしたりして、優位に立っていた相手を驚かせる。

はなを蠢かす 自慢する。鼻にかけた様子をする。

はなを折る 慢心をくじく。恥をかかせる。また、得意ぶっているのがくじける。鼻をくじく。鼻をひしぐ。かぶとをぬぐ。

はなをかむ 鼻汁を出す。また、強く出してふきとる。すすり泣く時の形容にも用いる。

はなを挫く 「はなを折る」に同じ。

はなを嚙る 鼻みずをすする。泣いたりして鼻みずをすすりあげる。

はなをそぐ 罪人の鼻を切り落とす。特に、中国古代の五刑の一つ。はなそぎ。はなきり。

はなを揃える 「はなを並べる」に同じ。

はなを高くする

鼻の形を高くする。また、面目を施す。自慢する。得意になる。

はなを突き合わす

非常に近く寄り合う。狭い場所に多数が集まっている。鼻を突く。

はなを突く ②嗅覚を刺激する。鼻をうつ。

はなを突っ込む

ある事柄に、頼まれもしないのに自分からでしゃばって、参加する。首を突っ込む。

はなを鳴らす 鼻から出るような音をさせる。犬がくんと鳴く声などにいう。また、鼻にかかった声を出して、甘えたりすねたりする行動や、嘲笑したり不満を表わしたりする動作にもいう。

はなを並べる 馬などが鼻面を接するように並ぶ。転じて、相接する。一線に並ぶ。鼻を揃える。

はなを弾く ①強く嗅覚を刺激する。鼻をうつ。

②意気込んでいるところをくじく。やりこめる。鼻を折る。

ほお【頬】

ほおが落ちるよう

この上なく美味であることの形容。

ほおを染める 恥ずかしくて、顔を赤らめる。

ほおを=ふくらす[=とがらす]

ふくれつつらをする。不承知、不平、不満などの様子を顔に表わす。不機嫌な顔つきをする。

くち【口】

くちあんぐり 茫然として思わず口を開けるさま。驚きあきれた様子にいう。くちあんぐり。あんぐり。

くちが合う 話がよく通じあう。お互いの言うことが一致する。

くちがあく ②就職先、官位などであきができる。空位空席が生ずる。

くちが=うまい[=上手]

話し方や物の言い方が巧みである。

くちがうるさい

①おしゃべりである。必要以上に口数が多い。また、そのような性質。

③ちょっとしたことにも小言や意見をやかましく言う。

くちが多い よくしゃべるさまである。また、おしゃべりな性質である。

くちが重い ことば数が少ない。饒舌でない。寡黙である。⇨口が軽い。

くちが掛かる 芸人、芸妓などが客から招かれる。転じて、仲間などから呼び出しがかかる。

くちが堅い 言ってはならないことを他言しない。また、そのような性質である。饒舌ではない。⇨口が軽い。

くちが軽い 何でもよくしゃべりたがって、言っではいけないことまでも言いがちである。また、そのような性質である。また、多弁である。⇨口が堅い・口が重い。

くちが利く ①すぐれた弁舌をもつ。口達者で気のきいたことを言う。

くちが腐っても

(口を動かさないために口が腐ることがあったとしても意) 言わない決意の強いことの形容。

くちが寂しい 「くちざみしい」に同じ。

*くちざみしい

口に入れる、または、口にするものがほしい感じである。口にするものがなくて物たりない。口がさびしい。口さびしい。口さむしい。

くちが過ぎる 人なみはずれて口やかましい。また、言うべきことをひかえるべき事柄、遠慮すべき事柄を言う。言いすぎる。

くちが酸くなる

同じ事を何度も繰り返して言うさま。いやになる程たびたび同じ事を言うさま。口を酸くする。

くちが滑る 言うてはならないことや、言う必要のないことなどを思わず言うてしまう。
くちが早い 聞いたことを他人にすぐしゃべりがちである。また、そういう性質である。

くちが干上がる

(飲食物が得られないため、口が干からびる意)生活の手段を失って困る。
くらしがたたなくなる。口が上がる。

くちが塞がらぬ

あきれてことばが出ない。「あいた口が塞がらぬ」の形でいう。

くちが減らない

(「へる」は負ける意)道理に負けても、なお理屈をならべたてるなどする。
負けおしみをいう。また、勝手なことを遠慮無く言う。へらずぐちをきく。

くちが回る うまくしゃべる。巧みにものを言う。舌が回る。

くちが寄る 人数が集まる。

くちから先へ生まれる

口数の多いおしゃべりや口の達者な者をあざけっていう。

くちが悪い ①言う内容のたちがわるい。また、憎まれ口をきく性質である。

くちに合う 飲食物が好みの味と一致する。

くちにする ①口に出して言う。話す。うわさする。話題にする。

②口に入れる。口にくわえる。食べる。飲む。タバコなどを吸う。

くちに出す (考えていること、知っていることなどを)言葉にあらわす。言う。話す。
しゃべる。

くちに付く 言い慣れて、いつも同じ言葉を口にする。口癖になる。

くちに=出る[=出す]

言葉となって口から出る。言う。しゃべる。

くちに手を当てる

(口を手で隠してひそひそ話す意から)陰口をきく。陰口を言うてあざわ
らう。

くちに戸を立てる

口をつつしんで、人のうわさなどをしないようにする。また、自由にもの
が言えないようにする。「人の口に戸は立てられず」が変化してできた言葉。

くちに乗る ②相手の言葉にだまされて言う通りにする。口車に乗る。

くちに頬張る (ロー一杯になるようなことなので言おうとしても言えないの意から)言う
だけでも身のほどに過ぎる。口で言うのさえ大それたことである。転じて、
口に出して言うのさえはばかりがあるの意にも用いる。

くちに任せる 深く考えないで、思いつくままにものを言う。口から出ませに言う。

くちの先 「くちさき②」に同じ。

*くちさき ②うわべばかりの言いぐさ。実際とはちがった事をただ口でうまく言うて
いるだけのこと。また、そのことば。口の先。

くちは禍の=門[=もと]

うっかり言った言葉で後の災難を招くことが往々にしてあるものだの意。

言葉はつつしむべきであるという戒め。

くちも八丁手も八丁

しゃべることもすることも非常に達者であること。口八丁手八丁。

くちを開ける ①入れ物のふたをはずす。開封する。

②ものを言う。口をきく。隠していたことなどをしゃべる。

③自白することをいう、盗人仲間の隠語。

くちを合わせる

①相手の話に調子を合わせる。話を合わせる。

②言うことが違わないように話を一致させる。言葉をしめし合わす。

くちを入れる 他人のことに口を出す。口をさしはさむ。

くちを固める ①他人に言わないよう約束させる。口止めする。

くちを利く ①ものを言う。話をする。

⑤二つのものの間がうまくいくよう、とりもつ。第三者が話をする。調停する。なかだちをする。

くちを切る ①まだ開いていない樽やビン、箱などのふたやせんをあける。

くちを差挟む 「口を挟む」に同じ。

くちを酸くする

「口が酸くなる」に同じ。

くちを=滑らす[=滑らせる]

①うっかりして言ってはならないことを言ってしまう。

くちを添える ②人の言うことなどに、はたから助成の言葉を加えてとりなす。口添えをする。

くちを揃える ①二人以上の人が同時に同じことを言う。異口同音に言う。

②しめしあわせて同じことを言う。口を合わせる。

くちを出す 割り込んでいって自分の意見などを言う。差し出口をする。容喙する。

くちを叩く べらべらとはばかりもなくしゃべる。よくしゃべる。口たたく。

くちを=衝く[=衝いて出る]

次から次へと自然に言葉が出てくる。

くちを噤む ①(「つぐむ」が四段活用の場合)口をしめて開かない。口を閉じてものを言わない。黙る。口を閉じる。

くちを慎む ②出過ぎたことや余計なことを言わないようにする。

くちを=尖らす[=尖らせる]

唇を前に突きだしてとがらせる。怒ったり、言い争ったりするときなどの口つき。転じて、不平不満を表わす顔つきにもいう。

くちを閉ざす 沈黙する。黙る。また、黙らせる。

くちを閉じる 「くちを噤む①」に同じ。

くちを直す まずいものなどを食べた後で、よい味のものを食べて前の味をなくする。口直しをする。

くちを濁す 言葉をあいまいにしてごまかす。話をぼやかして、わからないようにする。

くちを拭う (盗み食いをした後で、口をふいてそしらぬ顔をする意から) 何か悪いこ

とやまずいことをしていながら、していないふりをする。また、知っていながら知らないふりをする。口をふく。

くちを濡らす ①口の中をうるおす。少しばかり飲み食いする。

くちを挟む 人が話している途中に横からその話に割り込む。口をさしはさむ。

くちを開く ①話しはじめる。しゃべり出す。

くちを塞ぐ 人にものを言わせないようにする。悪事、秘密などをしゃべらせないようにする。金品を与えたり、殺害したりしてしゃべるのを封じる。

くちを減らす ②口数を少なくする。余計な口をきかない。

くちを養う (食物を口に入れることから) ようやく暮らしをたてる。

くちを割る ②自白することをいう、盗人仲間の隠語。

くちびる【唇・脣・吻】

くちびるを奪う 相手の唇に無理やりに自分の口をつける。暴力的にキスをする。

くちびるを重ねる 相手の唇に自分の唇をあてる。互いに唇を合わせる。

くちびるを嘯む くやしがるさま、また、いきどおりなどをこらえるさまを表わすことば。

くちびるを吸う 相手の唇に自分の口をつけて吸う。情のこもったキスをする。

くちびるを尖らす かどだててものを言う。不平、不満な様子を表わす。口を尖らす。

くちびるを盗む ひそかに、またすばやく、相手の唇を奪う。

は【齒】

はが浮く ①歯の根がゆるむ。また、すっぱいものを食べたり、不快な音を聞いたりして、歯の根もとがゆるむように感ずる。

はが立つ 自分の力が及ぶ。理解できる。また、相手に対抗して張りあうことができる。てにあう。多く打消を伴って用いる。歯に立つ。

はに衣着せぬ

つつみ隠すことなく、思ったままを率直に言う。はっきりと、飾らないで言う。

はに物を着せず

「はに衣着せぬ」に同じ。

はを=食いしばる[=食い合わせる]

くやしさや怒り、または苦痛などを必死にこらえる。

した【舌】

したが生える 味の良否を見分ける能力が高い。

したがる よどみなくしゃべる。巧みにものを言う。また、発音などをしっかりとしゃべることができる。

した足らず ⇒親見出し

①舌の動きが正常でなく、物言いが不明瞭なこと。また、そのさま。したたらず。したつき。

②ことば、文章などの表現が不十分なこと。十分に言い尽くしていないこと。言い足りないこと。また、そのさま。したったらず。

したの先 ①舌のはし。舌の先端。

したの根の乾かぬ内

ことばが終わるか終わらないうちに。言い終わって間もないうち。多く、前言に反したことをすぐ言ったり、行なったりするさまに用いられる。舌も乾かぬ間。

したも乾かぬ間

「したの根の乾かぬ内」に同じ。

したを打つ 舌打ちをする。舌を鳴らす。美味なこと、また、気に入らぬことについてのしぐさ。

したを出す ②自分の失敗を恥じたりてれたりするさまを表わす動作。

したを鳴らす ②軽蔑や不満などの気持を表わす動作。

したを抜かれる

舌を引っ張ってぬき取られる。嘘をついた者が地獄におちて受ける刑罰。

したを巻く ①相手に言いこめられたり、威圧されたりして沈黙するさまをいう。

あご【顎・腭・頤】

あごが外れる 大いに笑うことをたとえていう。

あごで=言う[=教える]

高慢な態度で指図する。あごで使う。

あごで=[=の先で]使う

高慢な態度で人を使う。人を見さげて使う。あごで言う。おとがいで人を使う。

あご振り三年 尺八を習得する場合、顎を振ることだけで三年もかかるほど困難なこと。転じて、何事も身につくようになるまで習うには年月を要することにもいう。首振り三年。

あごを出す (長い間歩いて疲れると、腰がひけて顎が出る格好になるところから) 弱り果てる。疲れ切る。転じて、自分の手に負えないで困る。

あごを撫でる 得意な様子を表わす動作にいう。

あごを外す 大笑いする。あごがはずれる。おとがいを解く。

くび【首・頸】

くびが危ない ①殺されそうで危険である。

②解職されそうである。

くびが飛ぶ ①首を切られる。殺される。

②免職になる。解雇される。

くびが細る 生命が危なくなる。

くびが回らない

借金などのためどうにもやりくりがつかない。

- くびにする ②職をやめさせる。解雇する。首を切る。
- くびになる ②職をやめさせられる。解雇される。除名される。
- くびに縄を付ける
無理に連れて行くことのたとえ。
- くびの皮一枚 皮一枚で首がつながっていること。まだわずかな望みが残っていることのたとえ。
- くびを折る ①首の骨を折る。
②頭を下げる。
- くびを賭ける 首を賭物として賭けをする。命がけで物事をする。また、解雇の危険性を冒して事をする。
- くびを傾げる ふしぎに思ったり、疑わしく思ったりするときの動作をいう。
- くびを切る ①首を切り落とす。斬罪に処する。打ち首にする。
②免職にする。解雇する。くびにする。
- くびを絞る ひもや縄などを首に巻いて締める。首をつる。くびれる。
- くびを締め 首を締める。また、驚いたり恐れ入ったりして、首を締めるしぐさをする。
- くびを揃える 人を集める。人を集めて組とする。
- くびを出す 隠されていた物事が表面に現われる。頭をもち上げる。
- くびを縦に振る
首を上下に振る。承諾、同意などの気持を表わす動作。
- くびを垂れる うつむく。下を向く。考えこんだり、悲しみ、失望や恥ずかしがったりするときなどの動作をいう。
- くびを縮める ①危険のために首を引っ込める。
②失敗やてれかくしなどのために、首をすくめる。
- くびを突っ込む
①関心、興味をもち、その事に関係する。仲間に加わる。
②その事に深入りする。没入する。
- くびを繋ぐ 首を切るべきところを許す。また、免職、解雇すべきところを許す。あるいは、免職、解雇をまぬがれる。
- くびを吊る 高い所に掛けたひもや縄に首をかけて吊りさがる。くびつりをする。
- くびを長くする
望み、期待が早く実現してほしいと思いながら待つ。待ち焦がれる。首をのばす。首をのぶ。鶴首する。
- くびを伸ばす 「くびを長くする」に同じ。
- くびを刎ねる 刀剣で首を切り落とす。
- くびを捻る 首を横に曲げる。
①疑問、不満、不賛成などの気持で考え込むときの動作。
- くびを振る ①首を左右に振る。不賛成や不満の気持を表わす動作。首を横に振る。
②首を上下に振る。賛成の気持を表わしたり、うなずいたりするときの動作。首を縦に振る。

くびを擡げる 「あたまを擡げる」に同じ。

くびを横に振る

首を左右に振る。否定する、また、承諾しない気持を表わす動作。

のど【喉・咽・吭】

のどが渴く ①のどに水気がなくなって、水などが欲しくなる。

のどが鳴る うまそうなものなどを見て食べたくてうずうずする。はなはだしく欲求が起こる。

のどから手が出る

ほしくてたまらないたとえにいう。

のどを潤す 水や茶などを飲んでのどのかわきをとめる。

のどを潤らす 大きな声で叫び続けて、それ以上声が出ないほどになる。声を嚔らす。

のどを絞る 邦楽などで、喉を狭め、力をこめて声を出す。粋な歌などの場合に多くいう。

のどをしめて息をする

はじめは大いに苦しんで、あとで楽をする。

のどを鳴らす 飢渴の時に飲食物を見て、ごくりとつばを飲んで音をたてる。転じて、はなはだしく欲しがることをいう。

からだ【体・軀・身体】

からだか=空く [=すく]

すべき用事がない。暇である。

からだが続く 負担の重い仕事に携わりながらも健康状態を保っていられる。

からだに障る からだによくない影響があらわれる。健康をそこなう。

からだを売る 売春をする。

からだを拵える 体力や筋力を強くする。丈夫な身体をつくる。

からだを粉にする

一所懸命ほねおってつくす。身を粉にする。

からだを壊す 過労、不養生などで健康をそこなう。病気になる。

からだを張る 一身をなげうって行動する。命がけで行動する。

からだを=許す [=任す]

女性が男性に身を任せる。肌を許す。

かた【肩】

かたが怒る ①肩がかどばっている。怒り肩になっている。肩が張る。

②(肩が上がってかどばったさまになる意から) 得意な気持になる。肩身が広くなる。肩身が怒る。

かたが軽くなる

①肩のしこりがとれる。

②重荷がとれる。重い責任や負担がとれて楽になる。

かたが凝る ①肩の筋肉が硬くなって、重苦しくなる。肩がつかえる。肩が詰まる。肩が張る。
 かたが直る 肩が軽くなる。今まで悪かった運がよくなる。
 かたが張る ①「かたが怒る①」に同じ。
 ②「かたが凝る①」に同じ。
 かたが良い ②物を投げる能力がある。特に野球などで、遠くまで投球する力があることにいう。
 ⇔肩が悪い
 かたが悪い ②物を投げる能力に劣っている。⇔肩が良い
 かたで息を＝する[＝切る・＝継ぐ]
 肩を上下に動かして苦しうに呼吸する。
 かたで風を＝切る[＝散らす]
 肩をそばだてて大威張りで歩く。威風を示したり、権勢を誇ったりするさまにいう。
 かたで笑う 肩を動かして笑う。相手を軽蔑した高慢なさまにいう。
 かたに掛かる 肩におおさる。背負われる。また比喩的に、責任などが負いかぶさる。
 かたの荷が下りる
 責任や負担がなくなる。
 かたの荷を下ろす
 責任や負担から解放されてほっとする。
 かたの骨 肩の部分の骨。
 かたを＝怒らす[＝怒らせる]
 肩を高く立てて、威勢を示す。高ぶった態度をとるさまにいう。肩をそびやかす。
 かたを入れる ①衣類からかたの部分を出していたのを入れる。肌脱ぎになっていたのが着物を着る。
 ②になうために、その物の下へ肩をあてる。転じて、加勢する。味方する。後援する。
 肩を持つ。
 かたを落とす 力が抜け肩が垂れ下がったようになる。氣力を失ったり落胆したりするさまなどにいう。
 かたを貸す 物をかつぐ手助けをする。転じて、援助や手助けをする。
 かたを組む 互いに相手の肩に腕をかけ合う。円陣を作ったり、友だち同士が親しみを表わしたりする時などの動作。
 かたを竦める 肩をちぢませる。おそれ入ったり、肩身せまく思ったり、とぼけたりするさまにいう。
 かたを窄める 肩をちぢめる。寒さを感じたり、おそれ入ったり、肩身せまく思ったりするさまにいう。
 かたを聳やかす
 「かたを怒らす」に同じ。
 かたを並べる ①並んで立つ。並んで歩く。また、物など同じ場所に並ぶ。
 ②対等の位置に立つ。同じような勢いや力をもつ。
 かたを張る 肩をそびやかして威勢のよい様子をする。また、気負った様子をする。
 かたを持つ 味方をする。ひいきする。肩を入れる。

わき【脇・腋・掖】

わきが甘い 相撲で、四つ身に組む際にひじを体に強くつけることをしないで、相手に

の整っていないさまをいう。

わきが堅い 相撲で、四つ身に組む際ひじを体に強くつけて、相手のはず押しや差し手を防ぐ体勢をいう。転じて、守備態勢の整っているさまをいう。

わきの下 ⇒親見出し

人の腕の付け根の下側の、くぼんだ所。わき。わきつぼ。わきした。

わきへ散らす ほかの方へ氣を向ける。よそごとのようにする。

うで【腕】

うで一本 地位、財産、背景などがなく、自分のからだだけを頼りにすることのたとえ。裸一貫。うで一本脛一本。

うでが上がる ①技術が進歩する。上達する。
②飲める酒の量が以前よりふえる。

うでがある 事をなす能力を持っている。技量がすぐれている。

うでがいい 能力や技量を十分に持っている。

うでが後ろへ回る

(後ろ手に縛られるの意から)罪を犯して検挙される。

うでが利く 腕力や武芸、また技量にすぐれている。

うでが冴える 技芸にすぐれ、ほれぼれとした仕上がりを見せる。

うでが立つ 武芸や技能を人一倍発揮できる能力を持つ。

うでが鳴る 自分の腕力、技能を十分に発揮したくてむずむずする。

うでに=覚えがある[=覚えた]

自分がかつて身につけた技量に自信がある。

うでに縊り进行ける

十分に腕前を發揮しようとして意氣ごむ。技術を尽くす。

うでを上げる ①技術が上達する。腕前を進歩させる。
②飲める酒の量が、前より多くなる。

うでを貸す 他人の仕事を手伝う。また、喧嘩の加勢をする。手を貸す。

うでを組む ①腕組みをして考えるさまにいう。
②人と人とが腕を組み合わせる。また、一つの目標に向かって団結することという。スクラムを組む。

うでを鳴らす ①腕力や技量をふるおうとして、適当な事態の起こるのを待っている。脾肉の嘆をなす。
②技量をあらわして、名声をひろめる。

うでを振るう 能力や技量を十分に發揮する。

うでを磨く 努力して武芸や技能などの上達をはかる。

ひじ【肘・肱・臂】

ひじを食わせる

「ひじでつぼうを食わす」に同じ。

*ひじでつぼうを食わす

肘の先で突きつける。誘いなどを拒絶する。肘にする。肘を食わせる。肘鉄を食わす。

ひじを張る

①肘を張り出して武張った様子をする。肘張る。

②気負う。氣勢を示す。威張り得意そうに振舞う。また、強情に意地を張る。肘張る。

て【手】

てが空く 仕事のきれめで、また、仕事が一段落してひまになる。

てがある 手腕がある。また、対策やたくらみをもつ。手練手管に通じている。

てが要る 人手を要する。仕事が多くて人手が必要である。

てが後ろに回る

(後ろ手にしばられるところから)罪人として警察などにとらえられる。

てが掛かる ①情交関係ができる。手が付く。

②手数料がいる。世話がやける。

てが利く 手先のわざがたくみである。器用である。また、腕前がすぐれている。

てが切れる 縁が切れる。関係がなくなる。

てが込む 細工、技巧などが緻密である。また、物事が、こみいつている。複雑である。

てが付かない

気になってその事に集中できない。落ち着いて物事の処理ができない。また、取るべき方法がない。手に付かない。

てが付く ①新しいものの一部が使われたり、消費されたりする。また、仕事などが着手される。

②料理などが食べはじめられる。

③立場が下の女などと、情交関係ができる。

てが付けられない

処置のしようがない。施すべき方法がない。

てが詰まる ①仕事などがいっぱいである。手いっぱいである。忙しい。

②よい方策がなくゆきづまる。手段に窮する。

てが出ない 相手があまりにすぐれていたり、状況があまりにひどかったりして、施す手段がない。

てが届く ①手を伸ばすと、目的物に手が達する。

②十分にゆきわたる。細かい所まで配慮されている。手がまわる。ゆきとどく。

③能力・権力・勢力・財力などの範囲内にある。自由にすることができる。また、その範囲内に到達する。

④ある年齢、時期などにもう少しで達する。その時がまぢかにせまる。近づ

- く。
- てが無い ①働き手がない。人手が足りない。
②施すべき手段がない。方法がない。どうしようもない。
- てが抜けない ①とりかかっていることから離れられない。手数がはぶけない。
- てが入る ①取締まりや検査のために、官憲が立ち入る。また、取り調べる。
②仕事や作品などを完成するまでの過程で、他人の訂正、補筆がある。
- てが離れる ①物事が一段落したりして、その仕事をしなくてもよくなる。関係がなくなる。
②子どもが成長して、世話に手数がかからないようになる。
- てが早い ①物事の処理がてきぱきとして敏速である。てばやい。
②すぐに異性に手を出す。特に、女性とすぐに性的関係を結ぶ。
③すぐ殴るなどの暴力をふるう。
- てが引ける 何かと仕事に時間をとられる。手がかかる。
- てが塞がる 仕事の最中で、他の事に手を出す余裕がない。何かをことわるときの決まり文句としても用いる。
- てが回る ①手配りが十分にゆきとどく。
③犯人逮捕の手配がされる。手がはいる。犯人の立場からいう。
- てが見える ①他人に見せたくない欠点や弱点が知られる。不始末があらわれる。手のうちが見える。
②力量、勢力などがわかる。特に、相手のたいしたことのないことがわかる。底が知れる。
③囲碁、将棋などで、次に行なうべき手段がよくわかる。
- てが焼ける 何とかめんどろをみるために苦労する。世話がやける。
- てが良い ①やり方がうまい。しゃれている。たくみだ。体がよい。
- てが悪い ①やり方がよくない。方法が悪い。たちが悪い。悪辣だ。
- て取り足取り ①多くの人が、力を合わせて人の手足をかかえ持つさま。また、押さえつけるさま。
②行き届いた世話をするさま。丁寧に教えるさま。
- てに合う ①道具などがそれを使う人の技術にかなっている。役にたつ。
②仕事などが、それを行なう人の能力にかなっている。自分の力でやりとげられる。
- てに汗を握る あぶない物事をそばで見ていたりなどして、ひどく気がもめる。また、見ていて緊張したり興奮したりする。手を握る。
- てに当たる ①手にさわる。手にふれる。また、手近にある。
- てに余る 自分の力では及ばない。手に負えない。手に合わない。
- てに入る ①「(「入る」が自動詞四段活用の場合)
①自分の所有となる。

□(「入る」が他動詞下二段活用の場合)→てに入れる。

てに入れる ①自分のものにする。

てに負えない

自分の力ではどうにもならない。処置に困る。手にあまる。手がつけれない。

てに負える (多く下に打消の語を伴って用いられる)自分の力でなんとか処置できる。→手に負えない。

てに収める 自分のものにする。所有する。手中に収める。

てに落ちる その所有となる。また、その支配下にはいる。手に帰す。手に入る。

てに掛かる ①世話をうける。

②取り扱われる。処分される。また転じて、殺される。処刑される。

てに掛ける ①自分で行なう。心のままに行なう。

②自分で世話をする。手塩にかける。

③自分の手をくだす。また、自分の手で殺す。

てに職 身についた、生計を立てられるような技能。「…がある」「…がない」「…を付ける」などの形で用いる。

てにする ①何かある行為をするために、自分の手で持つ。じかに手に取る。

②受け取る。落手する。

③手段にする。口実にする。

てに=付かない[=付かず・付かぬ]

他に心が奪われて、その事に身がはいらない。落ち着いて物事の処置ができない。手がつかない。

てに付く ①その部下となる。その配下に属する。

②(多く下に打消の語を伴って用いられる)仕事をする。物事に取り組む。⇔手に付かない。

③自分で行なう。身につく。

てに付ける 部下にする。味方にする。

てに手に ある物をめいめいがその手に。てんでに。

てに手を取る

互いに手を取り合う。手と手を握りあう。多く、相愛の男女が行動をともにする場合にいう。

てに取る ①じかに、わが手に取る。また、手に入れる。

②「てに取るよう①」に同じ。

てに取る=よう[=如く]

①きわめて近く、または明瞭に見えたり聞こえたりするさま。手に取るばかり。

②たやすく事を運ぶさま。すぐにも実現しそうなさま。

てに握る 手中におさめる。自分の所有とする。また、自分の配下にする。

てに乗せる 欺いて術中に陥らせる。欺く。だます。

てに乗る ①欺かれて術中に陥る。欺かれる。多く、「その手には乗らない」のように打

- 消の形で用いられる。
- ②思うままになる。自由になる。
- てに渡る ある人の所有となる。
- ての内 ⇒親見出し
- ①てのひら。たなごころ。掌。
- ②うでまえ。てなみ。技量。また、こつ。要領。
- ⑤(手の中に持つことの意から)権力のおよぶ範囲内。また、容易なこと。
- ⑥胸のうち。心の中。方寸の中。心中で計画していること。たくらみ。
- ての甲 手首と指の付け根との間の表側の面。てのひらの反対側。甲。
- ての下 ⇒親見出し
- ①手の内に持つように、完全に掌握すること。また、そのもの。自分のもの。
- また転じて、部下。てした。
- ての平 ⇒親見出し
- 手首から先の、物を握る時に内側になる部分。てのうら。たなごころ。
- ての者 その手に属するもの。てした。部下。配下。
- ても足も付けられず
- 「ても足も動きが付かず②」に同じ。
- *ても足も動きが付かず
- ②追いつめられて、進退がきわまる。また、物事が紛糾して、施すべき処置・手段のないさま。手も足も付けられず。
- ても足も=出ない[=出せない]
- 施すべき処置・手段もなく困りきる。追いこまれて進退きわまる。また、無力でどうすることもできない。手も出ない。手も足もない。
- ても出ない 「ても足も出ない」に同じ。
- てもない ①とるに足りない。わけもない。つまらない。造作もない。
- ても触れず 何ひとつとして手伝いもしない。また、特に工夫・意匠もこらさない。
- てを上げる ①下げていた手、または平伏して突いていた手を元の位置にもどす。
- ②降参する。屈服する。白状する。また、閉口して投げ出す。
- ③殴ろうとして拳を振りあげる。ぶつなどの乱暴をする。
- ④飲酒量を増やす。
- ⑤賛成する。同意する。
- てを=合わせる[=合わす]
- ①両方のてのひらを合わせておがむ。また、心から頼む。合掌して感謝の意を表わす。
- ②相手とする。相手として勝負をする。
- てを入れる ①手を加えて整える。手入れをする。また、不足を補ったり訂正したりする。
- ②手段を講じる。さぐりを入れる。わたりをつける。手をまわす。手を尽くす。
- ③警察が犯罪を探る。また、証拠品の押収や検挙のために、現場に踏みこむ。
- てを打つ ①てのひらをうち合わせて鳴らす。

- ④喜怒哀楽など感情が高まって、思わず手を打ち鳴らす。横手を打つ。
- ⑤てのひらを打ち鳴らして礼拝する。合掌する。
- ⑥商談・契約・和解などの成立した際の所作にいう。また、祝って拍手する。転じて、仲直りをする。契約が成立する。
- ⑦合点がいたり、納得したりする時にする動作。
- ⑧囲碁・将棋・双六などで、巧みな打ち方をする。
- ⑨必要な手段を講じる。一策を用いる。
- てを負う 手傷を負う。手負いとなる。負傷する。
- てを=負わせる[=負おす]
負傷させる。傷を負わせる。
- てを易え色を易える
「てを易え品を易える」に同じ。
- てを易え品を易える
さまざまな方法を試みる。いろいろな手段・方法を尽くす。
- てを反す きわめてたやすいことや、またたくまに変わることのたとえ。手の裏を反す。
手の平を反す。
- てを易える 別の視点や方法を試みる。
- てを掛ける ①みずから事に当たる。
②手出しをする。攻める。攻撃を加える。また、盗みをはたらく。盗む。
③関係をつける。手出しをする。特に、立場が下の女などと関係を結ぶ。
④手数をかける。人手をわずらわす。手を加える。
- てを貸す 手助けをする。手伝う。助力する。手を添える。
- てを借りる 手伝ってもらう。助力してもらう。
- てを切る 関係をたつ。交際をたつ。縁を切る。多く、男女の関係を清算することについて。
- てを下す ①直接自分で行なう。みずから事に当たる。手をおろす。
- てを配る 物事を行なうために、あれこれ配慮する。手配する。手くばりをする。
- てを組む ①両手の指と指を組み合わせる。
②腕組みをする。また、深く考えこんだり、何もしないで見ている状態にもいう。
③人と人とが手をにぎり合う。また、腕を組み合わせる。腕を組む。
④仲間になる。協力する。腕を組む。
- てを加える ①加工する。
②手数をかける。手をかける。
③修正する。補いなおす。
- てを拱く ③（多く、②の動作を伴って）深く考えこむ。深く考えに沈む。
*②うで組みをする。
④手だしをせずにいる。何もしないで見ている。手をつかねる。
- てを込める 念を入れてつくる。また、技巧をこらす。
- てを擦る もみ手をする。両手をもみ合わせる。転じて、懇願、謝罪、または畏敬、感謝

- するさまをいう。手のこっぼうを擦る。
- てを添える 「てを貸す」に同じ。
- てを染める 手をつける。しはじめる。事業などに関係する。
- てを出す ①うったりなぐったりする。暴力をふるう。また、攻撃する。
②そのことに関係する。かかわりあう。また、ものごとをやってみる。手出しする。
③女性と関係する。
④人の物をとる。奪う。盗む。
- てを叩く ①両手をうち合わせて鳴らす。
②神に礼拝する場合。
③人を呼んだりする場合。
④商談など話合いの成立で、めでたく決着のついた場合。
⑤同意、喝采、祝賀などの意で拍手をする場合。
- てを突かせる (手をついておじぎをさせるの意から)降参させる。あやまらせる。
- てを突く ①すわって、両手を下に突く。敬礼または謝罪・懇願などするさまにいう。
手を支う。
- てを尽くす あらゆる手段・方法をしつくす。できるかぎりのわざをつくす。大いに苦心をする。
- てを付ける ①ある事をしはじめる。着手する。また、かかわり合う。関係する。
②立場が下の女などと関係を結ぶ。
③公金もしくは他人の金を着服する。使いこむ。
⑤料理などを食べ始める。
- てを繋ぐ 仲間になる。協力し合う。
- てを通す ①衣服などを着る。
- てを取る ①手と手をたずさえあう。他人の手をにぎる。また、手をひく。
②親切・丁寧に教え導く。
③手引きをする。
⑥わざを用いる。
- てを馴らす ⇒てならず
①手なずけてならず。
②手になじませる。使いならず。
- てを鳴らす (人を呼んだりする時)両手をうち合わせて鳴らす。
- てを握る ①「てに汗を握る」に同じ。
②仲直りする。和解する。
③力を合わせて事に当たる。協力する。同盟する。
- てを抜く すべきことをしないで手数を省く。いいかげんな仕事ですませる。
- てを伸ばす 今までしなかった事をやってみる。勢力をひろげる。手をひろげる。
- てを離れる 手もとからはなれる。世話、看護、監督が不要になる。「親の手を離れる」
- てを払う ①手を振りはらう。

- てを引く ①手を取って引く。手を取って導く。手と手を携え合う。
②関係を断ってしりぞく。かかりあいをなくす。
- てを広げる 関係する範囲を広くする。仕事の規模を大きくする。てびろくする。
- てを振る (手を左右に振り動かす)
①不賛成や不満、不都合などの気持を表わす動作にいう。
②出会ったり別れる相手に向けてするあいさつの動作にいう。
- てを施す 手当てをする。処置する。
- てを回す ①手くばりを十分にする。手段をめぐらす。
②手を尽くして探索する。
③ひそかに手を尽くしてはたらきかける。
- てを結ぶ 相通じる。同盟を結ぶ。結託する。
- てを揉む (両手をもみあわせる)
①くやしがりたり、怒ったりなど、感情の高ぶったときの動作にいう。
②下手に出て、わびごとや頼みごとなどをするときの動作にいう。揉み手をする。
- てを焼く 処置に窮する。てこずる。もてあます。
- てを許す 囲碁で、待ったを許す。転じて、相手を許す。処置を寛大にする。
- てを緩める 今まで、きびしかったことを、少しゆるやかにするさまをいう。
- てを汚す 自ら苦勞して事を行なう。また、軽蔑したりしていて、今まででしなかったようなことを自らす。打消を表わすことばと共に用いられることが多い。手を濡らす。
- てを煩わす 人に世話をかける。やっかいをかける。人に手数にかかる。

ゆび【指】

- ゆび一本 (多く下に否定にことばを伴って) ほんのわずかでも、ちょっとでもの意を表わす。
- ゆびの腹 指先の内側。指の指紋のある部分。
- ゆびを折る ①指を一本ずつ曲げて、物を数える。指を曲げて確認しながら数える。
②多くのものの中で、特に指を折り曲げて数えあげるほどすぐれている。
- ゆびをくわえる ①うらやましがりながら、手出しができないでいる。空しく傍観する。また、なすことなく引き退く。
②恥ずかしそうにする。きまりわるそうにする。
- ゆびを差す ①指でそれとさし示す。指示する。指点する。ゆびさす。
②その人をさしてあげる。陰で悪口を言ったり非難したりする。うしろ指をさす。
③指でさわる。手を出す。手出しをする。関与する。
④見積もる。値ぶみする。
- ゆびをつめる 博徒などが、引責・わびなどのために、手の指を切断する。

つめ【爪】

つめに火をともし

ろうそくや油の代わりに爪に火をともし。ひどくけちであること、つましい暮らしをすることのたとえ。

つめの垢

①爪の先と指の間にたまった垢。爪くそ。

②（ふつう下に「程」をつけていう）きわめて少量のもの、または取るに足りないもののたとえ。ごくわずか。

つめの垢を煎じて飲む

すぐれた人の爪の垢をもらって、その人にあやかるの意。

つめの先程

ほんのわずかなことのたとえ。

つめの先まで似る

形がきわめてよく似ている。

つめを隠す

才能を表面に表わさないたとえ。能ある鷹は爪を隠す。

つめを食う

指先をかむ。気おくれしてはにかみ、もじもじする。爪を銜える。

つめを立てる

①爪の先を当ててひっかく。

②逆らう。抵抗する。

つめを研ぐ

爪をするどくする。獲物を得ようとして待ち構えるたとえ。野心をいだいて、それを遂げる機会をねらうたとえ。つめを磨く。

むね【胸】

むねが痛し

①胸が痛く感じるようである。

むねが合う

①衣服の胸の部分が重なり合う。

むねが痛む

心に苦痛を感じる。心痛する。悩む。

むねが一杯になる

悲哀・歓喜・感動などで心が満たされる。感極まる。

むねが躍る

期待・興奮などで浮き浮きして落ち着かなくなる。胸がどきどきする。胸がわくわくする。胸が弾む。

むねが裂ける

悲しみ、苦しみ、憎しみ、くやしきなどが大きくて、胸が裂けるような苦痛を感じる。胸がはり裂ける。

むねが揺ぐ

不安、期待などで心が動揺する。むなさわぎがする。

むねがすく

気分がさわやかになる。胸のつかえがとれる。溜飲がさがる。

むねがつかえる

①食物などで胸がふさがりような感じがする。

むねが潰れる

悲しみや心配事で心が強くしめつけられるように感じる。むなさわぎを感じてどきりとする。たいそう驚く。胸ひしぐ。

むねがつまる

悲しみ、悩み、感動などがこみあげてきて、胸がふさがりように感じる。胸が一杯になる。胸がふさがり。胸がはる。

むねが弾む

喜びや期待などで、胸がわくわくする。浮き浮きとした気分になる。胸が躍る。

むねがはりさける

「むねが裂ける」に同じ。

むねが塞がる 「むねがつまる」に同じ。
 むねが焼ける 胃に熱があるように感じる。胸焼けがする。
 むねが悪い ①はき気がして気分が悪い。胸焼けがして気持ちが悪い。
 ④胸の病気にかかっている。肺結核である。
 むねに当たる 心に思いあたる。心に強く感じる。
 むねに聞く 心の中でよく考える。心の中を振り返って確かめる。
 むねに刻む しっかりと胸にとどめて忘れない。
 むねに迫る いろいろの思いが胸に満ちていっぱいになる。胸につまる。
 むねに置く 表に出さないで心に秘めておく。胸に包む。
 むねにつかえる
 ①食べすぎ飲みすぎなどで胸がつまり、苦しくなる。
 ②心が苦しみにとざされる。心に悩みや苦しみがある。
 むねに手を当てる
 「むねに手を置く①」に同じ。
 むねに手を置く
 ①心を静め、落ち着いて考えるために両手を胸にあてがう。よく思索する。胸に手を当てる。
 むねの内 心の中で思っていること。心のうち。胸中。むなうち。
 むねのつかえ ①食物などで胸がいっぱいになること。食べすぎ、飲みすぎなどで胸苦しく感じるこ
 と。
 むねを明かす 心の中をうちあける。
 むねを痛める ひどく心配する。
 むねを打つ ③感嘆する。感動させられる。心をうつ。
 むねを=踊らす[=躍らせる]
 喜びや期待、また、不安などで胸をわくわくさせる。
 むねを貸す ①考えを示す。助言・助力をする。
 ②相撲で、上位の者が下位の者の稽古の相手をしてやる。また一般に、実力の上の者
 が、下の者の練習の相手をしてやる。
 むねを借りる 相撲で、下位の者が上位の者に稽古の相手をしてもらう。また一般に、実力の下
 の者が、上の者に練習の相手になってもらう。
 むねを焦がす ひどく思いわずらう。思いこがれる。胸を焼く。
 むねを叩く 自分が引き受けたからまかせておけという気持を表わす動作。
 むねを潰す ①胸がつぶれるようにひどく思い悩む。心を騒がす。
 むねをときめかす
 胸をときどきさせる。期待で心をおどらせる。胸をとどろかす。
 むねを=撫で[=撫でる]
 ①気持をおししずめる。
 ②心配事が解消して、ほっと安堵する。安心する。
 むねを弾ませる
 喜ばしい感情が心中に満ちあふれる。わくわくする。

むねをはだける

衣服の胸をあけて肌を露出させる。

むねを晴らす 胸のうちにあるしこりを払い除く。気持ちを晴れやかにする。

むねを張る 自信に満ちた態度をとる。また、威勢を示す。

むねを開く 心に思っていること、隠してしていることを残らず話す。正直にすべてを打ち明ける。
胸襟を開く。心を開く。

むねを脹らます

期待や喜びなどが心中に満ちあふれる。

せ【背・脊】

せにする ある物を背後に置く。

せに腹はかえられぬ

同じ身体の一部でも背と腹をとりかえることはできない。大切なことのためには、他を顧みる余裕がないことのたとえ。大きな苦痛を避けるためには、小さな苦痛はやむをえない。背中には腹はかえられぬ。背より腹。

せを合わす 背中合わせになる。

せを丸める 背中を丸い形にしてちぢこまる。

せを向ける ①物に対してうしろを向く。

②無関心な態度をとる。また、同意しない。そむく。背中を向ける。

はら【腹・肚】

はらが痛い ひどくおかしい。笑止である。

はらが痛む (「自腹を切る」を言いかえた言い方。自分の腹を切れば痛むところからいう) 自分の金を出す。身銭を切る。損失になる。

はらが大きい 他を受けいれる気持が大きい。度量がある。

はらが堅い 信念をかたく守って変えない。節操がかたい。

はらが決まる 決心がつく。覚悟ができる。

はらが下る 下痢をする。

はらがくねる 笑って腹がよじれる意で、非常におかしいこと、笑止なことをいう。腹の皮がよじれる。

はらが黒い 心の中がきたない。根性が悪い。はらぐろい。

はらが空く 空腹になる。腹がへる。

はらが据わる 物事に動じなくなる。落ち着く。覚悟する。度胸が据わる。

はらが立つ 怒る。癪にさわる。立腹する。はらだつ。

はらが違う 父親は同じだが、生みの母が異なる。腹ちがいである。

はらが煮える [=煮え立つ]

激しく怒っていらいらする。

はらが張る ①飽きるほど飲食して満腹する。

②胃腸にガスがたまったりして腹がふくれて、つっぱったようになる。また、腹がふとって突き出る。

はらが脹れる ①腹が肥えふとる。腹が大きくなる。
②食物をたくさん食べて腹いっぱいになる。飽食する。経済的に満ちたり
ていることにもいう。

③妊娠する。はらむ。

はらが減っては軍が出来ぬ

空腹では、何ごとも身を入れてやれない。

はらが減る 空腹になる。はらがすく。

はらに一物 心中にたくらみのあること。胸に一物。

はらに入れる ①食べる。食べ物を腹におさめる。

②事情などを理解する。心得る。

はらに納める 口外せず、自分の心の中だけにとどめる。

はらに落ちる 合点がいく。得心がいく。納得する。

はらに決める かたく決心する。決意をかためる。

はらに据えかねる

怒りをおさえることができない。がまんができない。

はらの皮が=振れる [=縋れる]

おかしくて、腹の皮がよれるほど大笑いする。腹の皮をよる。腹の皮をよ
じる。

はらの句 短歌の第四句。

はらの底 心の奥底。意中。

はらの足し 空腹をいやす助け。

はらの中 ①腹の内部。腹のうち。

②心中。胸中。心。腹のうち。

はらの=虫 [=中の虫]

①人体の消化器に寄生する虫。回虫の類。

②空腹どきの腹鳴りを、腹中に虫がいて、それが鳴くものとしていう、その虫。

③腹立ちの感情などを、腹中にいる虫によって起こるものとしていう、その虫。

腹だちや不満などの感情。

はらの虫が=治まらない [=承知しない]

癪にさわって我慢ができない。腹立つ心を抑えがたい。

はらの虫の居所が悪い

きげんが悪い。

はらは借り物 宿った母親の腹は一時の借り物で、生まれる子の身分は父親の如何による。

父系を中心として、子を産んだ母親の貴賤を問題としない考え方。

はらは背に替え難し

大切なことのためには、他のことを顧みる余裕がない。背に腹はかえられぬ。

はらも身の内 腹も身体の一部なのだから、むちゃな大食をすれば身体をこわす。暴飲暴
食を戒めている。

はらを=合わす [=合わせる]

心を通じ合わせる。一致協力する。ぐるになる。共謀する。

はらを痛める ①子を宿し、産むために身体を苦しめる。子を産む。「腹を痛めた子」のかたちで、自分の産んだ子。実の子。
 ②自分の金を支出する。自腹を切る。
 はらを抱える おかしさに耐えられないで大笑いをする。腹を捧ぐ。
 はらを貸す 正妻でない女性が子を腹に宿す。
 はらを借る 正妻以外の、身分の低い女性などに子を産ませる。
 はらを決める 覚悟を決める。決心をする。
 はらを切る ①切腹する。
 ③自分で費用を出す。身銭を出す。
 ④責任をとって辞職する。「失敗したら腹を切る覚悟だ」
 はらを括る どんな結果になってもたじろがないように意を決する。覚悟をきめる。腹をすえる。
 はらを下す 下痢をする。
 はらを拵える 食事をして、空腹を満たす。腹ごしらえをする。
 はらを肥やす 私利をむさぼる。金をためこむ。私腹をこやす。
 はらをこわす 下痢をする。
 はらを探る ①腹を診察する。
 ②それとなく人の意中をうかがう。
 はらを据える ③気を落ちつけ、対処のしかたを決める。覚悟をきめる。腹をくくる。
 はらを立てる 怒る。立腹する。
 はらを見抜く 人の意中を察知する。人の心を察見する。
 はらを読む 相手の心中を推測する。相手の考えを知る。
 はらを=縊る [=振る]
 ひどくおかしくて、身体をよじって大笑いをする。
 はらを割る 本心をうちあける。包み隠さずすべてをさらけ出す。腹の底を打ち割る。

い【胃】

なし

きも【肝・胆】

きもが大きい 心が強く物事に恐れない。度胸がある。⇔肝が小さい。
 きもが据わる 落ち着いていて、ものごとに驚かない。大胆だ。
 きもが小さい 度胸がない。小心だ。⇔肝が大きい。
 きもが潰れる ひどく驚く。びっくりする。肝が抜ける。肝消える。
 きもが抜ける 「きもが潰れる」に同じ。
 きもに染む 心に深く感じて忘れない。心に銘ずる。感銘する。
 きもに銘ず 心にきざみこむようにして忘れない。しっかり覚えておく。心に銘ず。
 きもを据える かたく決心する。覚悟をきめる。腹をすえる。
 きもを潰す 非常に驚く。肝を消す。肝を減らす。肝を飛ばす。肝をひしぐ。
 きもを嘗める ひどく苦しい思いをする。また、特に、あだ討ちや物事を成功させるため

に苦しみを経験する。

きもを抜かれる

「きもを取られる」に同じ。

*きもを取られる

非常に驚く。この上もなくびっくりして呆然とする。肝を抜かれる。

きもを冷やす 驚き恐れて、ひやりとする。

へそ【臍】

へそ=が [=で] 茶を沸かす

おかしくてたまらない、また、ばかばかしくてしかたがないとえ。多くあざけりの意をこめて用いる。へそがくねる。へそが西国する。へそが入唐渡天する。へそが宿替えする。へそが笑う。

へその緒 ⇒親見出し

胎児の臍と胎盤とをつなぐ細長い带状の器官。臍帯。

へその胡麻 へその中にたまった垢。胡麻に似た形でたまるのでいう。

へそを噬む 後悔する。ほぞをかむ。

へそを曲げる 機嫌をそこねて意固地になる。すねる。また、機嫌が悪くてわざと意地悪をする。

どう【胴】

どうが据わる 性根がすわる。度胸が定まる。肝がすわる。腹がきまる。

どうを据える 度胸を定める。肝をすえる。覚悟をきめる。

こし【腰】

こしが落ち着く

ある場所、ある環境に定着する。動揺しないでしっかりしている。

こしが重い 無精で、まめに動かない。気軽に出かけたり、行動したりしない。

こしが折れる ①邪魔されて物事を途中で止める。妨げられて半ばにして止める。屈服する。

こしが軽い ①行動が気軽である。また、落ち着きがない。

こしが碎ける ①腰の姿勢が崩れる。

②物事が途中で続けられなくなる。

こしが据わる ①腰を落ちつけて、物事をする。

こしが強い ①腰の力が強い。物を持ち上げるときなどに腰の力が強い。

③粘り気が強い。粘力がある。

④しなやかで折れにくい。弾力性に富む。

こしが無い ②粘りが無い。粘力がない。

こしが抜ける ①腰の骨の関節がはずれて座り込んでしまう。

②驚きや恐れのため足腰が立たなくなる。びっくりして体の自由を失う。

③意気地がなくなる。心や物事の支えとなっていたものがなくなる。本義

を忘れる。

- こしが張る 腰の部分が重くろしくふくれた感じになる。
- こしが低い ①腰の位置が低い。腰の据え方が低い。
②他人に対してへりくだりの気持ちがある。謙虚である。
- こしが引ける 何かするにあたって、自信がなくおどおどしている。および腰になる。
- こしに下げる ①物を腰に付けて下げる。腰にぶら下げる。
- こしに付ける ①物を腰に取りつける。
- こしの句 和歌の第三句。上の句の終わりの五文字。腰句。腰。
- こしを上げる ①立ち上がる。席を立つ。座を外す。
②事に取りかかる。行動に移る。みこしを上げる。
- こしを入れる ①「こしを据える①」に同じ。
②本気になる。本気になって物事に取りかかる。腰を据える。本腰を入れる。
- こしを浮かす 立ち上がろうとして腰を上げる。また、退去したくてそわそわする。
- こしを落ち着ける 「こしを据える②」に同じ。
- こしを落とす 勢いよく腰を下ろす。どしんと座り込む。
- こしを折る ①腰を曲げる。腰をかがめる。
③途中で邪魔をする。途中で妨げる。
- こしを屈める 腰を曲げて礼をする。腰を屈めて会釈をする。
- こしを掛ける 尻を物の上に載せる。物の上に尻をおろして休む。
- こしを据える ①腰を沈めるようにする。腰の重心を低くする。腰を落とす。腰を入れる。
②他に気を移さないで落ち着いて一つの物事をする。また、ある場所にすっきり落ち着く。腰を落ち着ける。
- こしを抜かす ①腰骨の関節がはずれて立つことができない。腰のつがいをはずして立てない。
②驚きのあまり足腰が立たなくなる。非常にびっくりして体の自由を失う。
- こしを伸ばす ①曲がった腰をまっすぐにする。
②らかな姿勢で休息する。疲れをいやす。休む。
- こしを引く (足の悪い人が腰を引いたような格好で歩くところから) 正常ではない歩き方をする。
- こしを低くする 他人に対してへりくだった態度をとる。

しり【尻・臀・後】

- しりが暖まる 同じ所に長くどまっている。同じ勤めに長くたずさわっている。尻がぬくもる。
- しりが=重い[=重たい]
動作がにぶくなかなか腰をあげない。また、物事をはじめめるのに、容易にはじめようとしなない。

しりが軽い ①動作が機敏である。また、物事を気軽にはじめる。
②かるがるしく振る舞う。軽率な振る舞いをする。
③女の浮気なさまをいう。

しりが切れる 後ろの方が切れている。物事が途中でちぎれてあとが続かない。中途半端である。

しりがこそばゆい いるべきでないところにいるような、落ち着かない心の状態をいう。また、きまりがわるい状態である。しりこそばゆい。尻の下がこそばゆい。

しりが据わらない 落ち着かない。じつくりと一か所に落ち着いていない。

しりが出る 秘密や悪事がばれる。尻を出す。

しりが長い 人の家を訪ねて、話しこんでなかなか帰らない。長居である。ながったりである。

しりがぬくもる 「しりが暖まる」に同じ。

しりから抜ける 見聞きしたことやだいじなことをすぐに忘れてしまう。尻ぬけである。

しりから火が付くよう 物事がさしせまって、あわてふためくさまをいう。

しりに敷く 相手を軽くみて、自分の思うままにふるまう。多く、妻が夫を軽んじて、勝手気ままにふるまうことをいう。尻の下に敷く。

しりに付く 「しりに立つ」に同じ。

*しりに立つ 人の後ろについて行く。人に従う。尻に付く。

しりに火が付く 物事がさしせまって、じっとしていられないさま、あわてふためくさまをいう。

しりの毛までむしられる 油断しているうちにとことん他人に愚弄される。有り金をすっかり奪われる。尻の毛まで抜かれる。

しりの下がこそばゆい 「しりがこそばゆい」に同じ。

しりの下に敷く 「しりに敷く」に同じ。

しりのしまい 最後。終末。特に、人の身のはて。

しりの骨 身体の尻の部分の骨。

しりを上げる ①すわっていたところから立ちあがる。訪ねて行った先から帰ろうとする。
②ことばの最後を高く発音する。

しりを追い回す 人のあとをしつこく追いかける。人にうるさくつきまとう。

しりを=落ち着ける[=落ち着かせる]

勤め先、訪問先などに、ゆっくりと落ち着いている。その場所に長くど
まる。腰を落ち着ける。尻を溜める。尻を溜める。

しりを落とす すわる。腰をおろす。

しりを切る ことばの終わりの方を言わないで途中で切ってしまう。

しりを括る 後始末をきちんとつける。また、よく注意する。用心する。

しりを据える ゆっくりそこに落ち着く。じっくり腰を落ち着ける。居すわる。

しりを出す 「しりが出る」に同じ。

しりを拭う 他人の失敗や不始末の事後処理をする。しりぬぐいをする。

しりを端折る ②話や文章などの最後の方を簡単にする。

しりをまくる ②本性を現わして喧嘩腰になる。居直る。

しりを結ぶ しめくくりをつける。後始末をきちんとする。

しりを持ち込む

事後の責任を問う。後始末をせまる。尻を遣る。

しりを持つ あと押しをする。加勢する。味方する。

しりを持って来る

後始末を申し入れに来る。責任を問いに来る。

しりを持って行く

後始末を申し入れに行く。責任を問いに行く。

けつ【穴・尻】

けつの穴が=狭い[=小さい]

けちである。吝嗇である。また、度量がせまく、あさはかである。小心で
ある。

けつを捲る (ならず者などが着物の裾をまくってすわり込むところから) 窮地に立っ
た人などが、逆に強い態度、威嚇的な態度に出る。いなおる。

けつを見せる 逃げてゆく。背中を見せる。

けつを割る ①暴露する。ぶちまける。

②隠しごまかしていたのがみつかる。しっぽを出す。

⑤自白する、白状することをいう、てきや・盗人仲間の隠語。

また【股・胯・叉・岐・俣】

またに掛ける ひろく各地を歩きまわる。各地をとび歩いて活動する。

あし【足・脚】

あしが上がる 失敗して頼りとするものを失う。職を失う。足上がりになる。

あしが重い ①足がだるい。

②気が進まない。気が重い。他人を訪れる気になかなかない場合など
に用いられる。

あしが近い 訪問することがたびたびである。⇔足が遠い。

あしが地に付く

行動、気持などがしっかりしている。落ち着いている。

あしが付く

①お尋ね者や逃亡者の足どりがわかる。

③隠したことが現われる。その事物により犯罪事実が証明されるいとうちとなる。

あしが強い

③飲食物が長い日数腐らない。

あしが出る

①予算、または収入を超えた支出になる。赤字になる。

②隠したことが現われる。ぼろが出る。足が付く。

あしが=遠い[=遠くなる・=遠のく]

しばらく訪れない。訪れることが間遠になる。足遠い。⇔足が近い。

あしが止まる

①注意が引かれて思わず立ちどまる。

②来なくなったり、または行かなくなったりする。

あしが早い

①歩む速度が早い。また、移動するのが早い。

②食物などの腐りかたが早い。長持ちしない。足が弱い。

③商品の売れ行きがよい。

あしが棒になる

歩き過ぎや立ち続けで、足がこわばるほど疲れる。足が摺粉木になる。

あしが向く

無意識のうちに、その方へ行く。

あしが弱い

①足が丈夫でない。達者に歩けない。足の動きがしっかりしない。

②車輪などが頑丈でない。

⑤食物が腐りやすい。足が早い。

あしに傷持つ

自分の身にやましいところがある。足の裏に傷持つ。脛に傷もつ。

あしに任せる

①乗物に乗らないで、歩いて行く。足を頼りに行く。また、足の力の続かなかぎり歩く。

②はっきりした行先もなく、また、特に目的も定めなくて歩く。あてもなく気ままに歩きまわる。

あしの裏

①足の、地を踏む部分。あしうら。あしのした。あなうら。あしのあなうら。⇔足の甲。

あしの甲

足の表。くるぶしから先の表側の部分。あしのひら。あなひら。⇔足の裏。

あしの下

「あしの裏」に同じ。

あしの向く方

どこへとも定めなくて、足の向いた方向。何となく向かって行く方角。

あしの湯

足を洗うための湯。

あし踏む

足をのせて体の重みをかける。強く踏む。

あしを上げる

職を失わせる。失業させる。足上がりにする。

あしを洗う

(汚れた足を洗うように) 悪事や、好ましくない職業の世界から抜け出ることという語。

①娼妓、芸人などが、勤めをやめて堅気になる。

②世間の人のいやがるような、良くない仕事をやめる。好ましくない行為をやめる。現代では、煩わしい仕事などをやめる場合にも用いる。

あしを入れる

①はいり込む。ある場所に入ってゆく。

- あしを移す 歩いて行く。歩を運ぶ。
- あしを奪う 乗物を自由に使わせないようにする。電車、汽車などが不通で、通勤、通学などができなくなる状態を、その原因について擬人的にいう語。「台風二二号は各地で市民の足を奪った」
- あしを=返す[=引り返す]
あともどりする。きびすを返す。
- あしを懸ける ②ある年齢に達しようとするほどになっている。手がとどく。
③干渉する。手出しをする。
- あしを傾ける 足を向ける。行く。赴く。
- あしを崩す 正座ではなく、楽な姿勢で座る。
- あしを組む すわって、一方の足を他方の足の上ののせて交差させる。
- あしを拵える 歩くのに便利なはき物などをつける。足ごしらえをする。
- あしを殺す 足音を立てないようにする。忍び足をする。足音を殺す。
- あしを掬う (相手の足を払うようにして支えを失わせる意から) 相手のすきに付け入って、思いがけない手段で相手を失敗、敗北に導く。足がらを掬う。
- あしを出す ①相場で損失し、規定の証拠金や身元保証金を払いに当ててもなお不足で完済できないことをいう。
②予算、または収入をこえる金額を使う。赤字になる。
④隠し事をしてぼろを出す。
- あしを付ける ①跡をつける。尾行する。また、失踪者の行先を搜索する。
②手がかりをつける。引っかけりをつける。関係をもつ。
- あしを遠くする 行かなくする。訪問を次第にまれにする。
- あしを留める ある場所にとどまっている。滞在する。
- あしを止める ①立ちどまる。
②行ったり、または、来たりしないようにする。
- あしを取られる ③交通機関の故障などで、それを利用できず、立往生する。
④足の自由を奪われる。障害物などにじゃまされて、歩行がみだれる。順調な進行がさまたげられる。
- あしを取る つまづかせる。けつまづかせる。
- あしを=延ばす[=延べる]
①緊張した気分を落ち着かせる。くつろいだ姿勢になる。
②さらに遠くまで行く。
- あしを運ぶ 歩いて行く。歩みを運ぶ。わざわざ訪ねて行く。
- あしを曳く ②足を引きずる。また、そのようにして歩く。
- あしを引っ張る ①他人の前進や成功をさまたげる。
②集団で物事をするとき、何人かがマイナスになるような行動をする。

あしを=踏み込む[=踏み入れる]

入りこむ。あえてその内部に入る。

あしを踏み出す

今までやってこなかったことにとりかかる。

あしを棒にする

足がひどく疲れるほど、歩きまわる。足を摺粉木にする。

あしを向ける ①相手をないがしろにする意。「足を向けて寝られない」の形で、恩を受けた人への感謝の気持を表わす。

②その方向、方面へ行く。

あしを休める 足をとめて休息する。

もも【股・腿】

ももの付根 股の内側の、下腹に接する窪んだ部分。鼠蹊部。

ひざ【膝】

ひざが流れる 膝が弱っていて、踏みこたえることができない。足もとがふらついてしっかりしない。すねが流れる。

ひざが抜ける ②膝の力がなくなる。

ひざが笑う 山道を下りる時などに、疲れて膝のあたりの力が抜け、がくがくすることをいう。

ひざの皿 膝がしらにある皿のような形をした骨。膝蓋骨。膝のかわら。ひざさら。また、膝そのものもいう。

ひざの下 ①膝がしらの下から足元まで。また、座っている人の膝がしらの下。ひざした。

②身近。ひざもと。ひざした。しっか。

ひざの骨 「ひざぼね」に同じ。

*ひざぼね 膝の骨。膝の皿骨。膝蓋骨。

ひざを打つ ②はっと思ひ当たったり、感心したり、また、おもしろいと思ったりした時などに手で「ひざ②」を軽くたたく動作をいう。膝をたたく。

*ひざ② 坐っている状態で、ひざがしらから、またまでの間。ももの表がわ。転じて、脚。

ひざを折る 膝をまげてかがむ。ひざがしらを床、地面などにつける。転じて、屈従する。屈服する。膝を屈める。

ひざを屈める 膝を折って、からだをかがめる。転じて、相手に屈従する。膝を折る。膝を屈する。

ひざを崩す きちんとした姿勢をくずして、楽にすわる。楽な姿勢ですわる。

ひざを屈する 「ひざを屈める」に同じ。

ひざを組む ①足を組んですわる。あぐらをかく。

ひざを進める ①前へにじり出る。相手に近づく。

②乗り気になる。興味を持つ。

ひざを抱く ①自分の膝をかかえる。孤独なさまを形容している。
ひざを叩く 「ひざを打つ②」に同じ。
ひざを正す きちんと姿勢をととのえてすわる。あらたまった様子ですわる。
ひざを立てる (古くは立て膝が礼儀正しいすわり方) 片方の膝を立ててすわる。片膝をたてる。
ひざを=突き合わす[=突き合わせる]
互いの膝が触れあう。密接した状態にある。非常に混みあう。転じて、互いにすぐそばで懇談する。
ひざを乗り出す
前へにじり出る。また、興味を感じて乗り気になる。膝を進める。
ひざを枕にする
他人の膝を枕代わりにする。
ひざを曲げる 「ひざを折る」に同じ。
ひざを交える 同席して親しく話し合う。うちとけて語り合う。

すね【脛・脛・脛・脚・髓】

すねに疵持つ 隠している悪事がある。自分の身に後ろ暗いことがある。やましいことがある。脛疵。足にきず持つ。
すねを齧る 自分で独立して生活することができないで、親または他人に養ってもら。親の脛をかじる。

かかと【踵】

かかとを踏む 先行する人にすぐ続いてあとを追う。

きびす【踵】

きびすを=返す[=転じる・=廻らす]
(かかとの向きを逆にするの意で)
①あともどりをする。ひき返す。